SEIKO

ASTRON

▶ 最初にお読みください

▶ 目　次

ユーザーガイド完全版
Complete User Guide

8X82　GPSソーラーウオッチ（クロノグラフ）

ご使用の前にこの説明書をよくお読みの上、
正しくご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

※ 金属バンドの調整は、お買い上げ店にご依頼ください。
ご贈答、ご転居などにより、お買い上げ店での調整が受けられない場合は、
弊社お客様相談窓口へご依頼ください。お買い上げ店以外では有料もしくは
お取扱いいただけない場合があります。

※ 商品に傷防止用の保護シールが貼られている場合があります。
必ずはがしてお使いください。貼られたままにしておくと、汚れ、汗、ゴミ、
水分などが付着してさび発生の原因となります。

目次

製品取扱上のご注意

⚠警告

取り扱いを誤った場合に、重症を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示します。

・次のような場合、ご使用を中止してください

○時計本体やバンドが腐食などにより鋭利になった場合

○バンドのピンが飛び出してきた場合

※ すぐに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご連絡ください。

・乳幼児の手の届くところに、時計本体や部品を置かないでください

部品を乳幼児が飲み込んでしまうおそれがあります。
万が一飲み込んだ場合は、身体に害があるため、ただちに医師にご相談ください。

・時計から二次電池を取り出さないでください

※ 二次電池について → 使用電源について P.41
二次電池の交換には専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
一般の酸化銀電池が組み込まれると、破裂・発熱・発火などのおそれがあります。

⚠注意

取り扱いを誤った場合に、軽症を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示します。

・以下の場所での携帯・保管は避けてください

○揮発性の薬品が発散しているところ(除光液などの化粧品、防虫剤、シンナーなど)

○5℃～35℃から外れる温度に長期間なるところ　○高湿度なところ

○磁気や静電気の影響があるところ　○ホコリの多いところ

○強い振動のあるところ

・アレルギーやかぶれを起こした場合

ただちに時計の使用をやめ、皮膚科など専門医にご相談ください。

・その他のご注意

○金属バンドの調整は専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
手や指などにけがをする可能性があるほか、部品を紛失する可能性があります。

○商品の分解・改造はしないでください。

○乳幼児に時計が触れないようにご注意ください。
けがやアレルギーをひき起こすおそれがあります。

○使用済み電池の処理は自治体の指示に従ってください。

○提げ時計やペンダント時計の場合、ひもやチェーンの取り扱いにご注意ください。
衣類や手・首などを傷つけたり、首を締めたりするおそれがあります。

○時計を外してそのまま置くと、裏ぶたとバンドや中留が擦れて、裏ぶた表面に傷が付く可能性がありますのでご注意ください。時計を外した場合は、柔らかい布等を挟んで置くことをお勧めします。

⚠警告

この時計はスキューバダイビングや飽和潜水には絶対に使用しないでください

スキューバダイビングや飽和潜水用の時計に必要とされる過酷な環境を想定した様々な厳しい検査を行っていません。専用のダイバーズウオッチをご使用ください。

⚠注意

直接蛇口から水をかけることは避けてください

水道水は非常に水圧が高く、日常生活用強化防水の時計でも防水不良になるおそれがあります。

⚠注意

水分のついたまま、りゅうずやボタンを操作しないでください

時計内部に水分が入ることがあります。

※ 万が一、ガラス内面にくもりや水滴が発生し、長時間消えない場合は防水不良です。お早めに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご相談ください。

水や汗、汚れが付着したままにしておくのは避けてください

防水時計でもガラスの接着面・パッキンの劣化やステンレスがさびることにより、防水不良になるおそれがあります。

入浴やサウナの際はご使用を避けてください

蒸気や石けん、温泉の成分などが防水性能の劣化を早めることがあります。

目次

特 長

■ この時計は、GPS衛星からの電波を受信し、地球上のどこにいてもすばやくその場所の正確な時刻を表示します。

次のような特長があります。

GPS衛星電波受信

世界中どこでも、ボタン操作ひとつで*現在地の正しい時刻に合わせることができます。

＊DST(Daylight Saving Time＝サマータイム)は手動対応

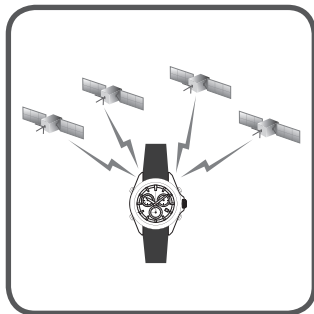
GPS衛星からの電波を受信し、すばやく時刻を合わせます。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

世界の全タイムゾーンに対応しています。

→タイムゾーンについて　P.6

時計を使う地域、タイムゾーンが変わったときは「タイムゾーン修正」の操作を行ってください。

→ タイムゾーン修正のしかた　P.18

ソーラー充電

ソーラー充電で動きます。

文字板に光を当てて充電してください。
フル充電で約6ヶ月間動きます。

エネルギー残量がなくなったとき、フル充電にするには時間がかかるため、こまめに充電をするように心がけてください

→ 充電のしかた　P.14
→ 充電にかかる時間のめやす　P.14

スマートセンサー(自動時刻修正)

ご使用時の行動パターンに合わせて、自動で時刻修正を行います。

外出時に明るい太陽光を感知したとき等は、自動でGPS衛星の電波を受信します。ご使用中にもお客様が意識することなく、常に正しい時刻に合わせられる機能です。

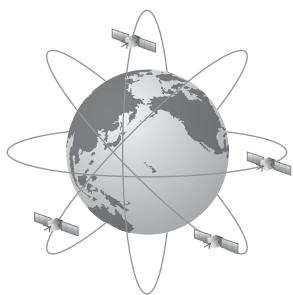
→ 自動時刻修正について　P.25

※充電量が不足しているときは受信を行いません。

→ エネルギー残量を確認する　P.13

※このGPSソーラーウオッチはナビゲーション用機器とは異なり、普段お使いになっているときに常にGPS衛星の電波を受信する仕様ではありません。
GPS衛星の電波の受信を行うのは、タイムゾーン修正、強制または自動時刻修正等を行うときのみです。

GPSソーラーウオッチが時刻・日付を合わせるしくみ

GPS衛星について

米国国防総省が管理する衛星（正式名称はNAVSTAR）で、高度約2万kmの軌道上を回っています。
本来は軍事目的の衛星でしたが、現在は情報の一部が民生用に開放されていて、カーナビゲーション、携帯電話等多くの機器で利用されています。
GPS衛星には、誤差10万年に1秒という高精度の原子時計が搭載されています。

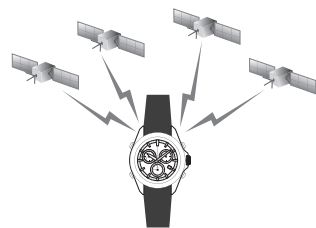
この時計が時刻・日付を合わせるしくみ

この時計ではGPS衛星からの電波を受信し、以下の情報をもとに時刻・日付を合わせます。

・原子時計に基づく正確な時刻・日付
・今いる場所のタイムゾーンの情報
（基本4基以上のGPS衛星により、今いる場所を測位し、世界の全タイムゾーンのどこにいるかを特定します。）

※今いる場所のタイムゾーンの情報を受信するには、タイムゾーン修正の操作をする必要があります。→タイムゾーン修正のしかた　P.18

※このGPSソーラーウオッチはナビゲーション用機器とは異なり、普段お使いになっているときに常にGPS衛星の電波を受信する仕様ではありません。
GPS衛星の電波の受信を行うのは、タイムゾーン修正、強制または自動時刻修正等を行うときのみです。

目次

タイムゾーンについて

タイムゾーン

世界各地には協定世界時（UTC）を基準にして、その国や地域で共通して使用する標準時があります。
標準時は国や地域により決められており、同じ標準時を使う地域全体をタイムゾーンと言い、現在40のタイムゾーンに分かれています（2014年1月時点）。

DST（サマータイム）：Daylight Saving Time＝デイライト セイビングタイム

地域によっては個別に【DST（サマータイム）】が設定されています。サマータイムとは、夏時間のことです。
夏の日照時間の長いときに、時刻を通常1時間進めて昼間の時間を長くする制度です。
欧米を中心に世界の約80ヶ国で実施されています。DST（サマータイム）の実施期間は、実施地域や国によって様々です。

※各地域のDST(サマータイム)は、国または地域の都合により変更される場合があります。

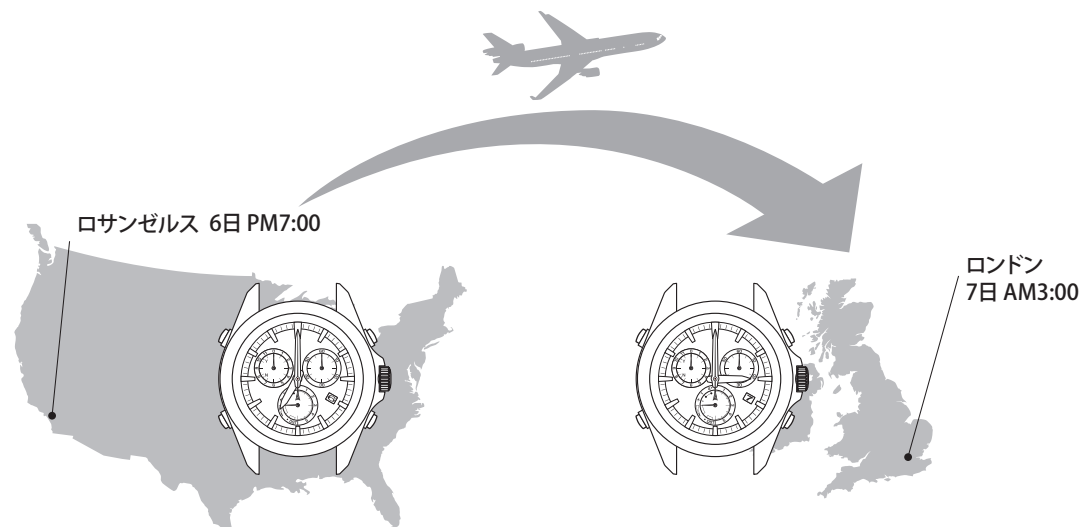
協定世界時（UTC）：Coordinated Universal Time ＝ コーディネイテッド ユニバーサルタイム

UTCは国際協定により定められた世界共通の標準時です。全世界で時刻を記録する際に公式な時刻として使われています。天文学的に定められた世界時（UT）とのずれを補正するため、世界中にある原子時計を元に決められた「国際原子時（TAI）」にうるう秒を加えて、調整をした時刻がUTCとなります。

このような使いかたがあります

時計を使う地域、タイムゾーンが変わったとき

タイムゾーン修正を行ってください。
今いる地域の正確な時刻を表示します。

→ タイムゾーン修正 P.17
→ タイムゾーンについて P.6
→ タイムゾーン表示と時差一覧 P.12

このような使いかたがあります

時刻のみを合わせたいとき

「強制時刻修正」の操作をすることで設定されている
タイムゾーンの正確な時刻を表示します。

→ 強制時刻修正のしかた　P.24
→ タイムゾーンとDST（サマータイム）の設定を確認する　P.20

目　次

各部の名称

時針
ボタン B
小秒針
ボタン A
インジケータ針（ストップウオッチ時針）
ストップウオッチ 1/5 秒針
分針
ボタン C
ストップウオッチ分針
りゅうず
日付
ボタン D

※ 各表示の位置は、モデル（デザイン）によって異なる場合があります。

次のページに続く

インジケータ針の表示、受信結果表示について

受信方法の表示

受信の方法	1（時刻修正）	4+（タイムゾーン修正）	うるう秒情報受信
表示			

受信結果確認 → P.28
強制時刻修正 → P.23
タイムゾーン修正 → P.17
自動時刻修正 → P.25
うるう秒情報受信 → P.27

機内モードの表示

針の位置	機内モード(✈)状態
表示	

機内モード(✈)について → P.21

エネルギー残量の表示

針の位置	十分	中くらい	少ない
表示			

エネルギー残量を確認する → P.13
充電のしかた → P.14

受信結果表示

Y … 受信成功
（52 秒位置）

N … 受信失敗
（38 秒位置）

【受信結果確認】→ P.28

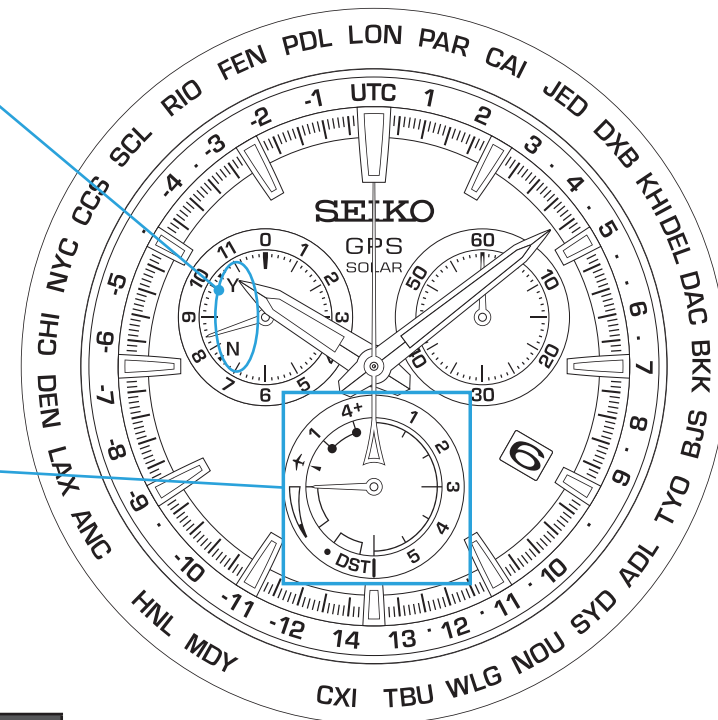
DST（サマータイム）表示

針の位置	・（解除）	DST（設定）
表示		

タイムゾーンとDST（サマータイム）の設定を確認する → P.20
DST（サマータイム）の設定をする → P.19

※ 各表示の位置は、モデル（デザイン）によって異なる場合があります。

次のページに続く

目次

タイムゾーン表示と時差一覧

ベゼルやダイヤルリングなどの表示はUTCからの時差の関係を表しています。
手動タイムゾーン選択をするときに参考にしてください。

★印の地域ではDST(サマータイム)が導入されています。
☆オーストラリア領のロード・ハウ島ではサマータイム実施時、30分時刻を進めています。この時計はロード・ハウ島のサマータイムに対応しています。

タイムゾーン表示

代表都市名‥‥ 世界の全タイムゾーンのうちの29都市
時差‥‥‥‥‥ +14〜−12時間

【タイムゾーンとDST(サマータイム)の設定を確認する】→ P.20
【タイムゾーン修正】→ P.17

時差表示

DST(サマータイム)
Daylight Saving Time＝ デイライト セイビングタイム

→ DST(サマータイム)の設定をする P.19

※各地域のタイムゾーン及びDST(サマータイム)の導入については2014年1月現在のものです。

都市表示	時差表示	代表都市名(タイムゾーン)	UTCからの時差
LON	UTC	★ロンドン/UTC	0時間
PAR	1	★パリ/★ベルリン	+1時間
CAI	2	★カイロ	+2時間
JED	3	ジッダ	+3時間
	•	★テヘラン	+3.5時間
DXB	4	ドバイ	+4時間
	•	カブール	+4.5時間
KHI	5	カラチ	+5時間
DEL	•	デリー	+5.5時間
	•	カトマンズ	+5.75時間
DAC	6	ダッカ	+6時間
	•	ヤンゴン	+6.5時間
BKK	7	バンコク	+7時間

都市表示	時差表示	代表都市名(タイムゾーン)	UTCからの時差
BJS	8	北京	+8時間
	•	ユークラ	+8.75時間
TYO	9	東京	+9時間
ADL	•	★アデレード	+9.5時間
SYD	10	★シドニー	+10時間
	•	☆ロード・ハウ島	+10.5時間
NOU	11	ヌーメア	+11時間
	•	ノーフォーク島	+11.5時間
WLG	12	★ウェリントン	+12時間
	•	チャタム諸島	+12.75時間
TBU	13	ヌクアロファ	+13時間
CXI	14	キリスィマスィ島	+14時間
	−12	ベーカー島	−12時間
MDY	−11	ミッドウェー島	−11時間

都市表示	UTC時差	代表都市名(タイムゾーン)	UTCからの時差
HNL	−10	ホノルル	−10時間
	•	マルケサス諸島	−9.5時間
ANC	−9	★アンカレッジ	−9時間
LAX	−8	★ロサンゼルス	−8時間
DEN	−7	★デンバー	−7時間
CHI	−6	★シカゴ	−6時間
NYC	−5	★ニューヨーク	−5時間
CCS	•	カラカス	−4.5時間
SCL	−4	★サンティアゴ	−4時間
	•	★セント・ジョンズ	−3.5時間
RIO	−3	★リオデジャネイロ	−3時間
FEN	−2	フェルナンド・デ・ノローニャ諸島	−2時間
PDL	−1	★アゾレス諸島	−1時間

※ 都市表示とUTC時差表示はモデルによって異なる場合があります。
※ 時差表示の数字の間にある「・」は、その位置にタイムゾーンが存在することを示しています。

目次

エネルギー残量を確認する

インジケータ針の位置で、この時計が受信ができる状態か確認できます。
また、エネルギーが少ない状態については、小秒針の動きによって、より詳しくエネルギー不足の程度を確認することができます。

※GPS電波受信を行うには、たくさんのエネルギーが必要です。こまめに光を当て、充電することを心がけてください。 →充電について P.14

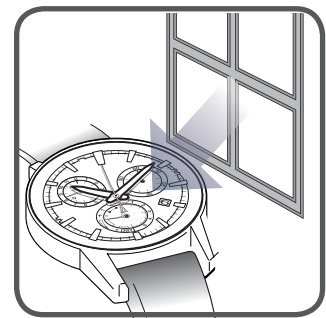
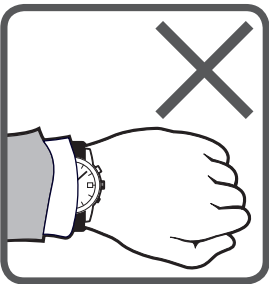
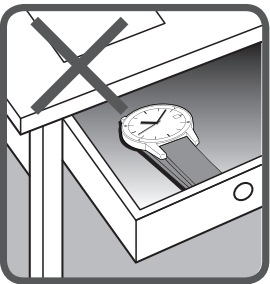
インジケータ表示	エネルギー残量	このようにしてください
	十分	受信できる状態です。 このままご使用ください。 →P.15に進む
	中くらい	受信できる状態です。 充電を心がけながら ご使用ください。 →P.15

インジケータ表示	小秒針の動き	エネルギー残量		このようにしてください
	1秒運針	少ない	受信はできませんが、時計を動かすエネルギーはあります。	受信ができるように、少なくともインジケータ針が「中くらい」になるまで充電をしてください。 →充電について P.14
	2秒運針		受信ができない上に、時計を動かすエネルギーも不足しています。(エネルギー切れ予告機能が働いています→P.33)	時計を動かし続けられ、かつ、受信ができるように、少なくともインジケータ針が「中くらい」になるまで充電を継続してください。 →充電について P.14
	5秒運針			
	—	機内モード(✈)のため、エネルギー残量は表示されません。		機内モード(✈)を解除できる環境であれば、機内モード(✈)を解除してください。 →機内モード(✈)状態を解除する P.21 インジケータ針が「少ない」を指している場合には、上記に従って充電を行ってください。

目次

充電について

充電のしかた

文字板に光をあてて充電してください。

快適にご使用いただくために、
十分な充電をすることを心がけましょう。

以下の状況では充電不足によりエネルギーが切れ、
時計が止まる可能性が高くなります。
・時計が衣類の袖の中に隠れている
・光のあたりにくい環境での使用や保管が続く

※充電の際は、時計が高温にならないように注意し、強い日光に長時間当てることは避けてください。
（作動温度範囲は－10℃～＋60℃です。）

※使いはじめ、または充電不足で停止していた時計を駆動させるときは、右の表をめやすに十分な充電を行ってください。

充電にかかる時間のめやす

以下の時間をめやすに、充電を行ってください。

GPS電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。こまめに光を当て、インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるように充電することを心がけてください。（エネルギー残量が「少ない」になると、GPS電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）

→この時計が受信できる状態か確認する（エネルギー残量確認） P.13

照度 lx（ルクス）	光源	環境（めやす）	時計が止まっている（充電されていない）状態から		運針している（充電されている）状態で
			フル充電まで	確実に1秒運針になるまで	1日ぶん動かすには
700	蛍光灯	一般オフィス内	－	－	3.5時間
3000	蛍光灯	30W 20cm	420時間	12時間	1時間
1万	太陽光 蛍光灯	くもり 30W 5cm	115時間	4時間	15分
10万	太陽光	快晴（夏の直射日光下）	50時間	1.5時間	10分

「確実に1秒運針になるまで」の数値は、止まっていた時計に光をあてて、確実に１秒運針になるまでに必要な充電時間のめやすです。この時間まで充電しなくても１秒運針になりますが、その状態ではすぐに２秒運針になることがあります。この時間をめやすに充電してください。

※ 充電に必要な時間は、モデルによって若干異なります。

目次

基本操作フロー

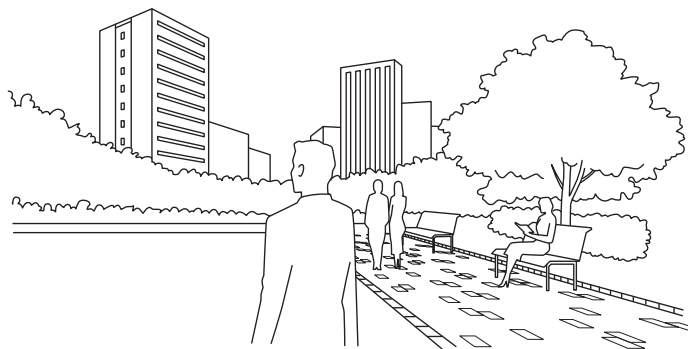
1.GPS電波が受信しやすい場所か確認する
→受信しやすい場所･受信できない場所 P.16
2.タイムゾーンの設定､時刻･日付を合わせる
<GPS電波受信による設定>
・時計を使う地域、タイムゾーンが変わったとき
・時刻のみを合わせたいとき
GPS電波が受信しやすい環境にいる
空が見えて､視界が広い屋外
GPS電波が受信できない環境にいる
例．地下鉄構内
・電波を受信して タイムゾーンの設定、時刻・日付を合わせる
・必要に応じてDST（サマータイム）の設定をする
→ タイムゾーン修正のしかた P.18
→ DST（サマータイム）設定をする P.19
時刻のみを合わせる
→ 強制時刻修正のしかた P.24
<手動による設定>
→ タイムゾーンとDST（サマータイム）の設定を確認する P.20
タイムゾーンの設定が合っていない
→ 手動タイムゾーン選択のしかた P.22
タイムゾーンの設定が合っている
→ 手動時刻合わせのしかた P.44

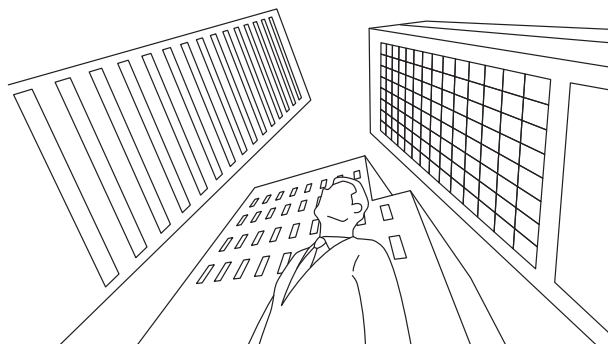
目次

受信しやすい場所・受信できない場所

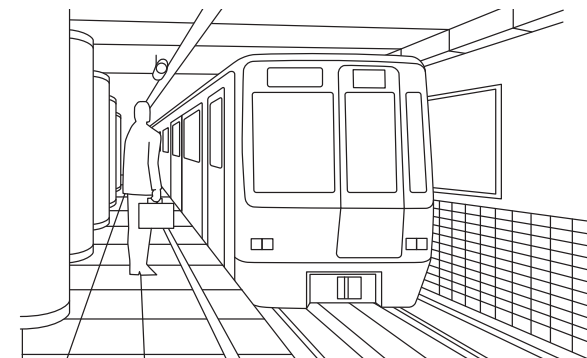
GPS電波を受信しやすい場所と受信できない場所があります。

○ 受信しやすい

・空が見えて、視界が広い屋外

受信しにくい

・空が見える範囲が狭くなるほど受信しにくくなります。
また、受信中（特にタイムゾーン修正を行うとき）に電波をさえぎるものがある場合も受信しにくくなります。

例
・ビルの谷間
・木々の近く
・駅・空港
・窓のある屋内
※窓ガラスの種類によっては受信ができません。「×受信できない」を確認してください。

受信できない

・空が見えない、一部しか見えない
・受信をさまたげるものがある

例
・窓のない屋内
・地下
・トンネル通過中
・熱放射遮断効果等のある特殊ガラス越し
・ノイズを発する機器、無線通信を行う機器の近く

目次

時計を使う地域・タイムゾーンが変わったときは（タイムゾーン修正）

タイムゾーン修正について

世界中どこにいても、ボタン操作ひとつで*今いる場所のタイムゾーンを特定し、現在地の正しい時刻に合わせることができます。

＊DST（Daylight Saving Time＝サマータイム）は手動対応

→ タイムゾーン修正のしかた　P.18

※受信の成否は受信環境によって左右されます。→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

※受信に成功しても、DST（サマータイム）は自動では設定されません。手動で設定を行なってください。

→ DST（サマータイム）の設定をする　P.19

※ GPS電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。
こまめに光を当て、インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるように充電をすることを心がけてください。　→充電のしかた　P.14
（エネルギー残量が「少ない」になると、GPS電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）

→エネルギー残量を確認する　P.13

※ストップウオッチ作動中は受信機能が働きません。

タイムゾーン修正に関する注意事項

タイムゾーンの境界線付近でタイムゾーン修正を行うと、隣接するタイムゾーンの時刻が表示されることがあります。
これはしくみ上起こりうることで、故障ではありません。
その場合には手動タイムゾーン選択でタイムゾーンの設定をしてください。

→ 手動タイムゾーン選択のしかた　P.22

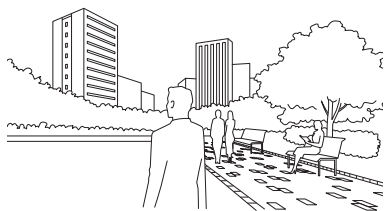
陸路の移動途中でタイムゾーン修正を行う際はタイムゾーン境界付近を避け、出来るだけそのタイムゾーンの代表的な都市で行うようにしてください。
また、タイムゾーン境界線付近で使用するときは、必ずタイムゾーンの設定を確認し、必要に応じて手動でタイムゾーンの設定を行ってください。

次のページに続く

目次

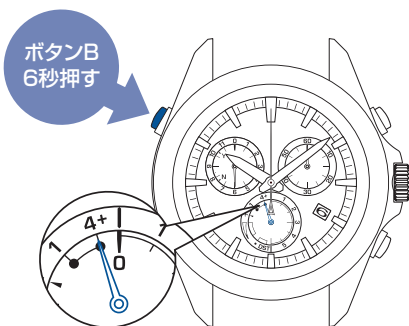
タイムゾーン修正のしかた

1 受信しやすい場所へ行く

空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

2 ボタンBを押し続けて（6秒）小秒針が30秒位置に移動したら離す

※ ボタンBを押して3秒後に小秒針は0秒位置に移動しますが、そのまま押し続けてください。

小秒針が30秒位置に移動して受信がはじまります。インジケータ針は「4+」を指します。

※ インジケータ針が「少ない」または ✈ を指しているときは受信の操作をしても受信が始まりません。
「少ない」を指しているときは、光をあてて充電してください。
→充電のしかた P.14
この時計が受信できる状態か確認する
→エネルギー残量を確認する P.13
✈を指しているときは、機内モード（✈）を解除してください
→機内モード（✈）状態を解除する P.21

※ ストップウオッチ作動中は、受信の操作をしても受信が始まりません。

3 時計を真上に向けたまま待つ

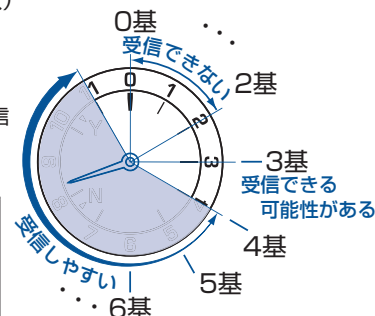
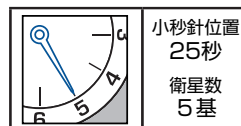
※ 移動中は受信しにくくなる可能性がありますのでご注意ください。

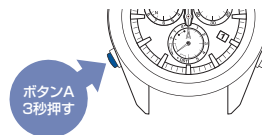
受信終了までにかかる時間は、最長2分です。

※受信の状況によります。

<受信中の表示（捕捉衛星数）>
小秒針が受信のしやすさ（受信中のGPS衛星の数）を示します。

※捕捉衛星数が多いほど、受信しやすい状態です。

小秒針位置	25秒
衛星数	5基

※ 表示が4基以上を示していても、受信できない場合があります。

※ 受信をキャンセルさせるときは、ボタンAを押してください。

4 小秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

受信結果が5秒間表示されます。
その後、時分針が動き、時刻・日付が合います。
（タイムゾーンの設定も今いる場所になります。）

受信結果表示	Y：成功（52秒位置）	N：失敗（38秒位置）
表示		
状況	そのままお使いください。	→ 受信結果が「N」になったときは P.16

時刻表示に戻ったあとに受信ができたか確認する
→ 受信ができているか確認する P.28

※ 日付が動いている間は、ボタンの操作はできません。
※ DST（サマータイム）の設定は手動で行ってください。
→DST（サマータイム）の設定をする P.19

目次

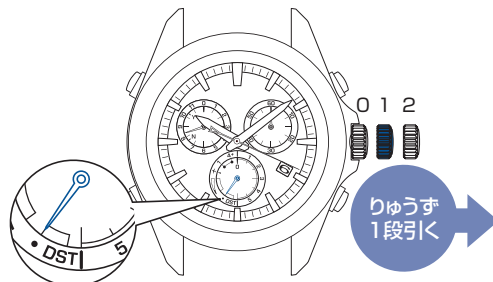
DST（サマータイム）の設定をする

DST（サマータイム）の設定をする

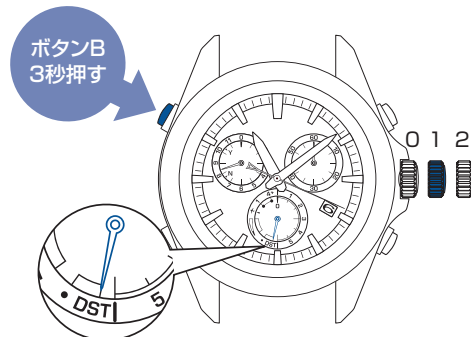
手動でDST（サマータイム）に設定することができます。

※DST（サマータイム）の設定は自動では変わりません。
※タイムゾーン修正・手動タイムゾーン選択を行っても
　自動ではDST（サマータイム）の設定は切りかわりません。
　サマータイムを実施している地域から実施していない地域に行くときは、DST（サマータイム）を解除してください。

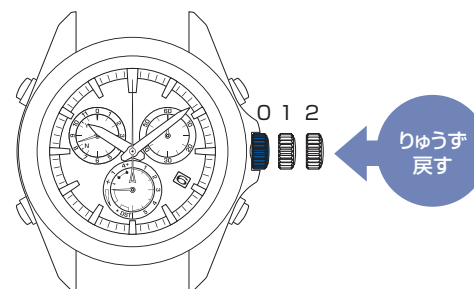
1 りゅうずを１段引きだす

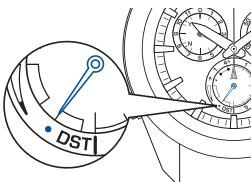
インジケータ針が、DST（サマータイム）の設定を表示します。ストップウオッチ１/５秒針は現在のタイムゾーンを表示します。
＜DST（サマータイム）の設定が解除の状態＞

※ストップウオッチ使用中の場合は
　ストップウオッチがリセットされます。

2 ボタンBを押し続ける（3秒）

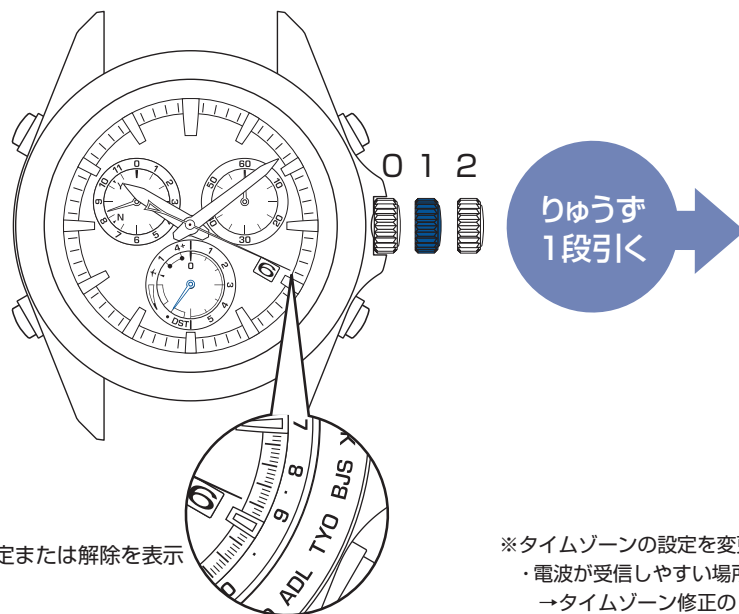
インジケータ針が動いて「DST」を指し、時分針が１時間進みます。

※オーストラリア領のロード・ハウ島ではサマータイム実施時、30分時刻を進めています。

3 りゅうずを押し戻す

インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。
ストップウオッチ１/５秒針が０秒に戻ります。

DST（サマータイム）の設定を解除する

DST（サマータイム）が設定されているとき①～③の操作を行ってください。
②の操作ではインジケータ針を右図の位置「・」に合わせてください。
時分針が１時間戻ります。

タイムゾーンとDST（サマータイム）の設定を確認する

1 りゅうずを１段引きだす

ストップウオッチ1/5秒針が動いて、現在設定されているタイムゾーンを表示します。
インジケータ針はDST（サマータイム）の状態を表示します。

<インジケータ針の表示>
DST（サマータイム）の設定または解除を表示しています。

DST	・(解除)	DST(設定)
表 示		

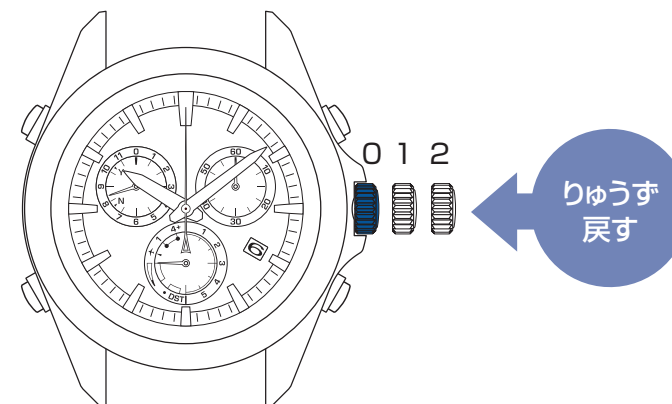
※タイムゾーンの設定を変更したいとき
・電波が受信しやすい場所にいるとき
→タイムゾーン修正のしかた　P.18

・電波が受信できない場所にいるとき
→手動タイムゾーン選択のしかた　P.22

※ストップウオッチ1/5秒針の位置とタイムゾーンの関係について
「タイムゾーン表示と時差一覧　P.12」を確認してください。

2 りゅうずを押し戻す

ストップウオッチ1/5秒針が0秒に戻ります。
インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。

目次

飛行機に乗るとき（機内モード（✈）について）

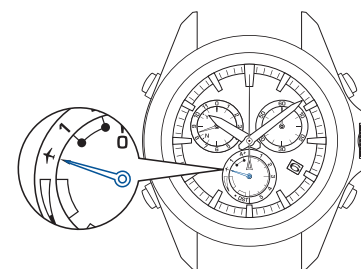
■ 機内モード（✈）について

飛行機内など他の電子機器の動作に影響を与える可能性がある場所では、機内モード（✈）状態にしてください。
機内モード（✈）状態にすると、GPS電波受信（タイムゾーン修正・強制時刻修正、自動時刻修正）がはたらかないようになります。

＜機内モード（✈）状態＞
インジケータ針が ✈ を示します。

※機内モード（✈）が解除されると、インジケータ針はエネルギー残量を示します。

■ 機内モード（✈）状態にする

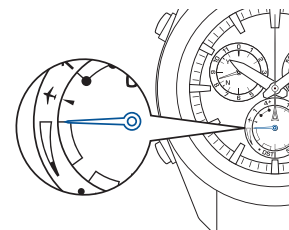
1 ボタンAを押し続ける（3秒）

機内モード（✈）状態になると、インジケータ針は「エネルギー残量」を示しません。

→ 飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき（手動タイムゾーン選択） P.22

■ 機内モード（✈）状態を解除する

飛行機から降りた場合などは機内モードを解除してください。
解除しないとGPS電波受信が行えません。
①の操作を行ってください。
インジケータ針が右の図の位置「エネルギー残量表示」を示すと、機内モード（✈）が解除されます。

※エネルギー残量が「十分」の場合の例

目次

飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき（手動タイムゾーン選択）

手動タイムゾーン選択について

タイムゾーン修正ができない場所では、手動でタイムゾーンを設定できます。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P. 16

「タイムゾーン表示と時差一覧 P.12」をめやすに、タイムゾーンを設定することで、その場所の時刻・日付に合わせることができます。

※ DST（サマータイム）の設定は「DST（サマータイム）の設定をする　P.19」で行ってください。

手動タイムゾーン選択のしかた

1 りゅうずを1段引きだす

ストップウオッチ1/5秒針が動いて、現在設定されているタイムゾーンを表示します。

2 りゅうずを回してストップウオッチ1/5秒針を目的地のタイムゾーンに合わせる

りゅうずを回すとストップウオッチ1/5秒針が動き、となりのタイムゾーンに移動します

※ストップウオッチ1/5秒針の位置とタイムゾーンの関係については、「タイムゾーン表示と時差一覧　P.12」をご確認ください。

<インジケータ針の表示>
DST（サマータイム）の設定または解除を表示しています。

DST	解 除	設 定
表 示	DST	DST
針位置	・	DST

※DST（サマータイム）の設定が合っていないときは、「DST（サマータイム）の設定をするP.19」の②の操作で設定または解除に切り替えてください。

3 りゅうずを押し戻す

ストップウオッチ1/5秒針が0 秒に戻ります。インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。

※日付が動いている間は、ボタンの操作はできません。

目次

時刻のみを合わせたいとき（強制時刻修正）

強制時刻修正について

設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻に合わせることができます。
（タイムゾーンの変更は行いません。）

→ 強制時刻修正のしかた　P.24
→ タイムゾーンとDST（サマータイム）の設定を確認する　P.20

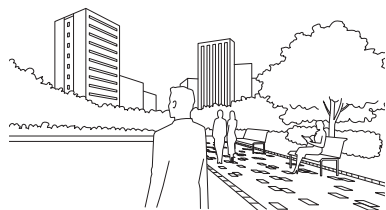
※強制時刻修正では、設定されているタイムゾーンの正確な時刻を表示します。
　時計を使う地域・タイムゾーンが変わったときはタイムゾーン修正をしてください。→ タイムゾーン修正のしかた　P.18
　（タイムゾーン修正を行うとタイムゾーンの設定と時刻・日付が合うため、直後に強制時刻修正をする必要はありません。）
※DST（サマータイム）は自動では設定されません。手動で設定を行なってください。 → DST（サマータイム）の設定をする　P.19
※受信の成否は受信環境によって左右されます。→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16
※強制時刻修正を行い受信に成功した時刻は自動時刻修正を行う時刻となることがあります。詳しくは「スマートセンサー（自動時刻修正）について」P.25をご確認ください。
※GPS電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。
　こまめに光を当て、インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるように充電をすることを心がけてください。→ 充電のしかた　P.14
　（エネルギー残量が「少ない」になると、GPS電波受信の操作をしても受信がはじまりません。） → この時計が受信できる状態か確認する（エネルギー残量を確認する）　P.13
※ストップウオッチ作動中は受信機能が働きません。

次のページに続く

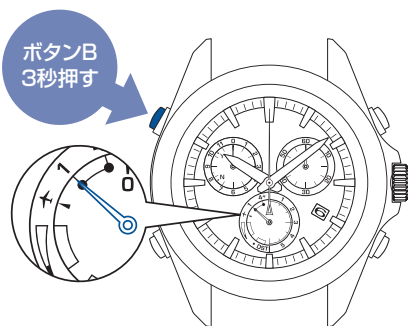
目次

強制時刻修正のしかた

1 受信しやすい場所へ行く

空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。

→ 受信しやすい場所･受信できない場所 P.16

2 ボタンBを押し続けて（3秒）小秒針が0秒位置に移動したら離す

小秒針が0秒位置に移動して受信がはじまります。
インジケータ針は「1」を指します。

※ インジケータ針が「少ない」または ✈ を指しているときは受信の操作をしても受信が始まりません。
「少ない」を指しているときは、光をあてて充電してください。

→充電のしかた P.14
→エネルギー残量を確認する P.13

✈を指しているときは、機内モード（✈）を解除してください。

→ 機内モード（✈）状態を解除する P.21

※ ストップウオッチ作動中は、受信の操作をしても受信が始まりません。

3 時計を真上に向けたまま待つ

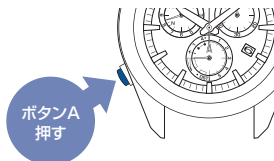
受信にかかる時間は、最長1分です。

※受信時間は受信の状況によります。

<受信中の表示（捕捉衛星数）>
小秒針が受信のしやすさ（受信中のGPS衛星の数）を示します。

※ 時刻情報のみを取得するため、受信に必要な衛星の数は1基です。

捕捉衛星数	1基	0基
表　示		
状　況	受信しやすい	受信できない

※ 受信をキャンセルさせるときは、ボタンAを押してください。

4 小秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

受信結果が5秒間表示されます。
その後、時分針が動き、時刻・日付が合います。

受信結果表示	Y：成功（52秒位置）	N：失敗（38秒位置）
表　示		
状　況	そのままお使いください。	→ 受信結果が「N」になったときは P.16

時刻表示に戻ったあとに受信ができたか確認する

→ 受信ができているか確認する P.28

「Y」と表示されても時刻が合わないときは、タイムゾーンやDST（サマータイム）の設定が今いる場所と合っていない可能性があります。タイムゾーンやDSTの設定を確認してください。

→タイムゾーンとサマータイム（DST）の確認をする P.20

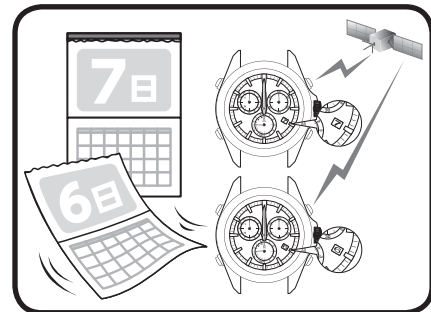
※ 日付が動いている間は、ボタンの操作はできません。
※ DST（サマータイム）の設定は手動で行ってください。

→DST（サマータイム）の設定をする P.19

目次

スマートセンサー（自動時刻修正）について

空が開けた屋外に出たときに明るい光が当たることで、自動的にGPS電波を受信して時刻修正を行い、正確な現在時刻に合わせることができます。
また、空が開けた屋外でも、上着等に時計が隠れて文字板に光が当たらない場合には、前回強制時刻修正が成功した時刻を時計が記憶していて、同時刻に自動で時刻修正を行います。

※空が見えない場所では、GPS電波を受信できません。→受信しやすい場所・受信できない場所　P.16
※エネルギーが十分にある状態であれば、毎日自動時刻修正を行います。
※自動受信は１日に最大１回です。このため、自動時刻修正に失敗しても、次の自動時刻修正は翌日以降になります。
※自動時刻修正では、タイムゾーンの修正は行いません。
　時計を使う地域が変わったときはタイムゾーン修正を行ってください　→タイムゾーン修正のしかた　P.18

＜光が当たりにくいときは＞
空が開けた屋外でも、冬期など衣服に（時計が）隠れる時期や、日照時間が短い地域、天候などにより光に当たりにくい時間が続いたときは、最後に強制時刻修正が成功した時刻に自動時刻受信を行うようになっています。
上記のような使用環境が続く場合には、日ごろ、空が開けた受信しやすい場所にいることが多い時間帯に強制時刻修正を成功させておくと、自動時刻修正が成功しやすくなります。
　→強制時刻修正のしかた　P.24

ただし、下記の条件も考慮して自動時刻修正をはじめるか判断しているため、「光が当たること」または「強制時刻修正が成功した時刻」になると必ず自動時刻修正がはじまるということではありません
・エネルギーの残量
・これまでの受信状況

※インジケータ針の位置が「少ない（エネルギー残量）」、機内モード（✈）のときは自動時刻修正がはたらきません。
　「少ない（エネルギー残量）」を指しているときは、光をあてて充電してください。　→充電のしかた　P.14
　→この時計が受信できる状態か確認する（エネルギー残量を確認する）　P.13
※エネルギーが少なくなると、自動時刻修正を行わない間隔が長くなります。こまめな充電を心がけてください。
※自動時刻修正がはじまる前にタイムゾーン修正または強制時刻修正を行うとその日は自動時刻修正を行いません。
※ストップウオッチ作動中は自動時刻修正が働きません。

GPS電波受信について

GPS電波受信には３種類あります。それぞれの特長は以下のとおりです。

受信方法	時刻修正	タイムゾーン修正	うるう秒情報受信
表示	強制時刻修正 → P.23 自動時刻修正 → P.25	タイムゾーン修正 → P. 17	
特長	**時刻修正** 設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻を表示	**タイムゾーンの特定と時刻修正** 今いる場所のタイムゾーンを特定し、正確な現在時刻を表示	**うるう秒受信** うるう秒情報受信 → P.27
受信に必要な衛星の数	１基（時刻情報のみを取得するため）	基本4基以上（時刻情報、タイムゾーンの情報を取得するため）	――
受信にかかる時間	6秒～1分	30秒～2分	30秒～18分
どういうときに	タイムゾーンが変わらない地域で使っていて正確な時刻に合わせたいとき	タイムゾーンの違う地域に行ったとき	6月１日と12月１日以降にGPS電波受信（自動時刻修正または強制時刻修正）を行った後、自動的にこの表示になる

GPS電波受信　Q&A

Q：タイムゾーンの違う地域に移動したときは、自動的に現地の時刻になりますか？
A：移動しただけでは現地の時刻になりません。
GPS電波が受信しやすい場所にいるときはタイムゾーン修正をしてください。自動的に現地の時刻を表示します。
GPS電波が受信できない場所にいるときは手動タイムゾーン選択をしてください。
→手動タイムゾーン選択について　P.22
（世界の全タイムゾーンに合わせることができます。）

Q：DST（サマータイム）はGPS電波受信をすることで自動的に変わりますか？
A：DST（サマータイム）の設定は手動で行ってください。
→ DST（サマータイム）の設定をする　P.19
（GPS衛星からの電波にはDST（サマータイム）の情報が含まれていません。）
同じタイムゾーンの中でも、DST（サマータイム）を採用していない国や地域があります。
→ DST（サマータイム）について　P.12

Q：うるう秒が挿入される年は、特別な操作が必要ですか？
A：特別な操作は必要ありません。
6月１日と12月１日以降のGPS電波受信（自動時刻修正または強制時刻修正）と同時にうるう秒情報の受信を行うため、定期的にGPS電波を受信をすることで自動的にうるう秒が挿入されます。詳しくは「うるう秒について（うるう秒自動受信機能）　P.27」を確認してください。

目次

うるう秒について（うるう秒自動受信機能）

うるう秒について

うるう秒は天文学的に決められた世界時（UT）と国際原子時（TAI）とのずれを補正するためのものです。
毎年～数年に１度、「１秒」挿入（削除）されることがあります。

うるう秒自動受信機能について

「うるう秒情報」をGPS衛星から電波を受信することにより、うるう秒の実施時刻になったときに、自動的にうるう秒が挿入（削除）されます。

※「うるう秒情報」には、今後のうるう秒実施の有無の情報と、現在のうるう秒情報が含まれています。

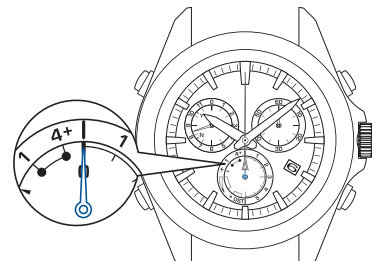
うるう秒情報の受信について（うるう秒情報受信）

<ins>６月１日と１２月１日以降にＧＰＳ電波受信（自動時刻修正または強制時刻修正）を行うと、インジゲータ針が右のような表示になります。</ins>

<うるう秒情報受信中>

うるう秒情報の受信が終了するとインジケータ針がエネルギー残量表示に戻りますので、そのままお使いください。

※うるう秒情報の受信は、うるう秒の実施に関わらず半年ごとに行います。

うるう秒情報の受信が終了するまで、時刻修正（自動時刻修正または強制時刻修正）終了後、最大１８分かかります。

以下の状況でGPS電波受信をしたときも、うるう秒情報の受信をはじめます。
- 長期間、GPS電波受信をしなかったとき
- うるう秒情報の受信に失敗したとき

（次のGPS電波受信で再度うるう秒情報の受信を行います。うるう秒情報の受信が成功するまで行います。）

目次

■ 受信ができているか確認する（受信結果確認について）

最後にGPS電波受信を行ったときの、受信の種類と受信した結果（成否）を５秒間表示します。

1 ボタンBを押して、離す

小秒針とインジケータ針が受信結果を表示します。

※ボタンＢを押し続けると、強制時刻修正の動作に入ります。

2 受信の結果が表示される

小秒針が受信結果（成否）を示します。
インジケータ針は、その時の受信方法（「1」または「4+」）を指します。

※タイムゾーン修正の場合は「4+」を指します。

小秒針：受信結果（成否）

結 果	成功	失敗
表 示		
位 置	Y：52秒位置	N：38秒位置

インジケータ針：
受信方法（強制時刻修正またはタイムゾーン修正）

種 類	1（強制時刻修正）	4+（タイムゾーン修正）
表 示		

※５秒経過、またはボタンＡを押すと
時刻表示に戻ります。

受信結果がYになったときは

- 受信ができています。
  そのままお使いください。

受信結果がNになったときは

- 受信ができていません。
  必要に応じて屋外などの、GPS電波が受信しやすい場所で受信させてください。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

※受信に成功してから約5日経過すると、
受信結果表示は「N」になります。
※GPS電波受信ができない状態でもクオーツの精度（月差± 15秒）で動いています。

どうしても受信がうまくいかないときは、
手動で時刻を合わせてください。

→ 手動時刻合わせのしかた　P.44

目次

うるう秒情報の受信ができているか確認する

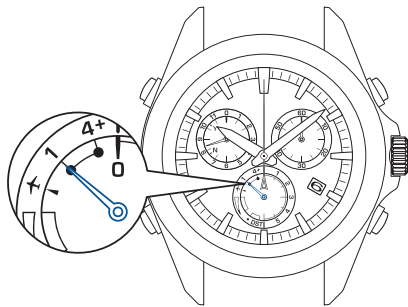
定期的に行っている「うるう秒情報受信」の結果（成否）を５秒間表示します。

1 ボタンBを押して、離す

小秒針とインジケータ針が受信結果を表示します。

※ボタンＢを押し続けると、強制時刻修正の動作に入ります。

2 受信の結果が表示される

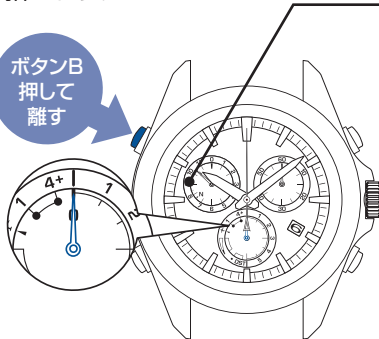
小秒針がGPS電波受信（時刻修正またはタイムゾーン修正）の結果を表示します。
インジケータ針は、その時の受信方法（「1」または「4+」）を指します。

※タイムゾーン修正の場合は「4+」を指します。

小秒針：受信結果（成否）

結 果	成功	失敗
表 示		
位 置	Y:52秒位置	N:38秒位置

※５秒経過、またはボタンＡを押すと時刻表示に戻ります。

3 2の「受信の結果」が表示されている（5秒）間に再度ボタンＢを押して、離す

小秒針が「うるう秒情報受信結果」（成否）を示します。
インジケータ針は、「うるう秒情報受信」の「0」を指します。

※ボタンＢを押し続けると、強制時刻修正の動作に入ります。

※５秒経過、またはボタンＡを押すと時刻表示に戻ります。

小秒針：受信結果（成否）

結 果	成功	失敗
表 示		
位 置	Y:52秒位置	N:38秒位置

うるう秒情報受信の結果がＹ（成功）になったときは

・うるう秒情報受信ができています。
　そのままお使いください。

うるう秒情報受信の結果がＮ（失敗）になったときは

・定期的に行なう「うるう秒情報受信」がまだできていない状態です。
　次のGPS電波受信（自動時刻修正や強制時刻修正）のタイミングで自動的に行ないますので、そのままお使いいただけます。
　※「うるう秒情報」は、６月１日と12月１日以降に情報を受信するしくみになっています。
　※「うるう秒情報受信」ができていない状態でも、「うるう秒の挿入（削除）」が実施されるまでは、時刻は正確です。

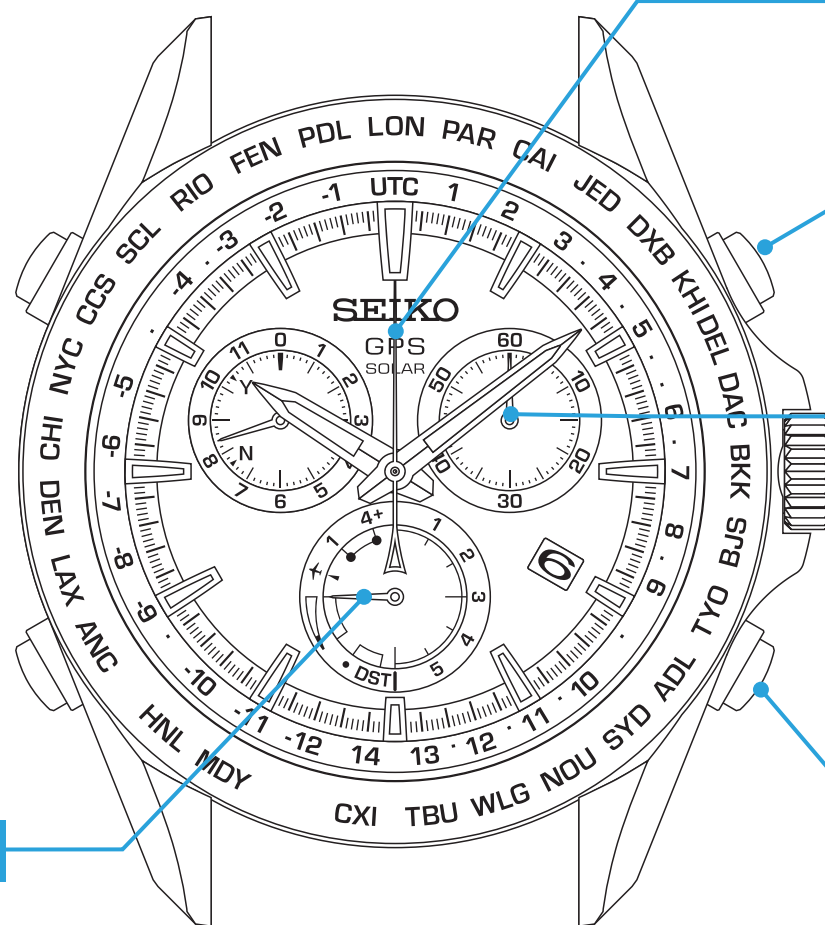
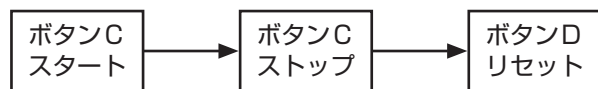
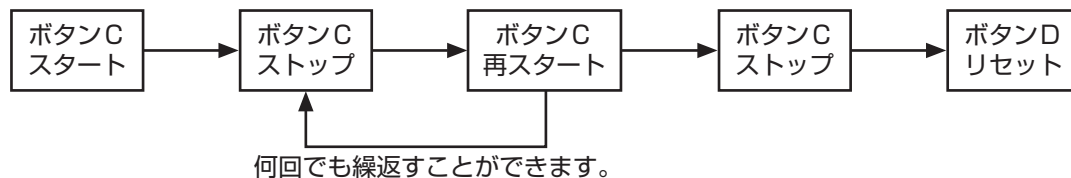
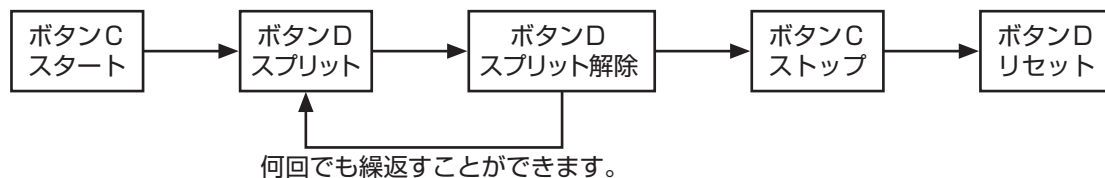
　必要に応じて屋外などの、GPS電波が受信しやすい場所で受信させてください。
　→受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

目次

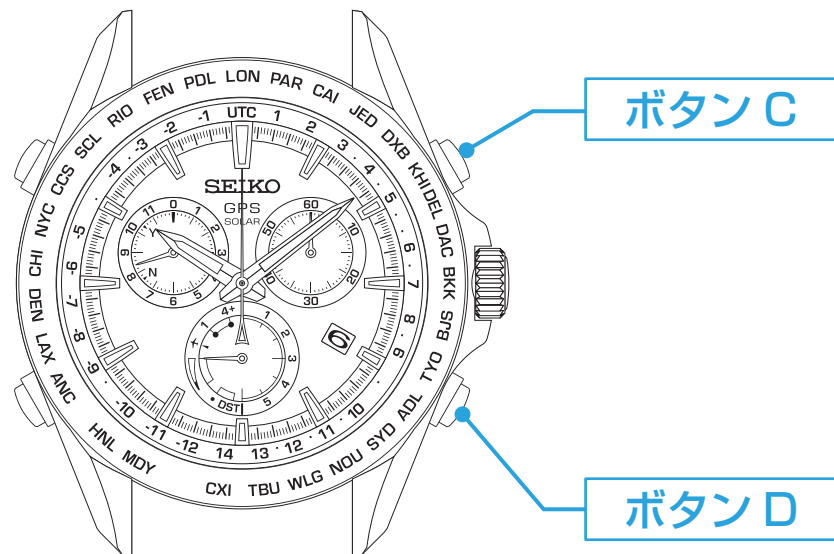
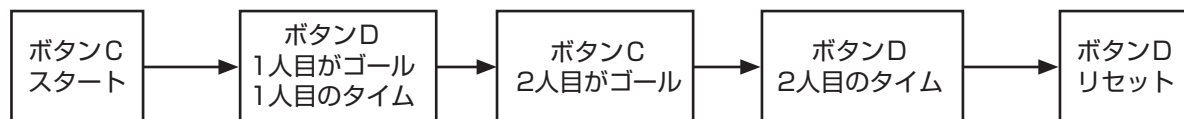
ストップウオッチの使いかた

ストップウオッチの基本機能について

- 1/5秒単位で最大5時間59分59秒8まで計測および読み取りができます。
- 3本の針で表示します。
  6時間経過後、ストップ・リセットします。
- ストップウオッチ1/5秒針は、最大10分間作動後、0秒位置で留まります。
  スプリットまたは、ストップ操作があると、その秒を表示します。

目次

通常の使用方法

時間計測を積算で行なう場合

途中経過（スプリットタイム）を計測する場合

※「スプリット」状態で、計測時間が6時間になると、自動停止がはたらきます。
　スプリットは解除され、「0時間0分0秒」に戻ります。その後、インジケータ針は、エネルギー残量表示に切り替わります。

2人のタイムを測定する場合

目次

ストップウオッチのリセット方法

・ストップウオッチ針が動いている場合、
① ボタンCでストップ
② ボタンDでリセット

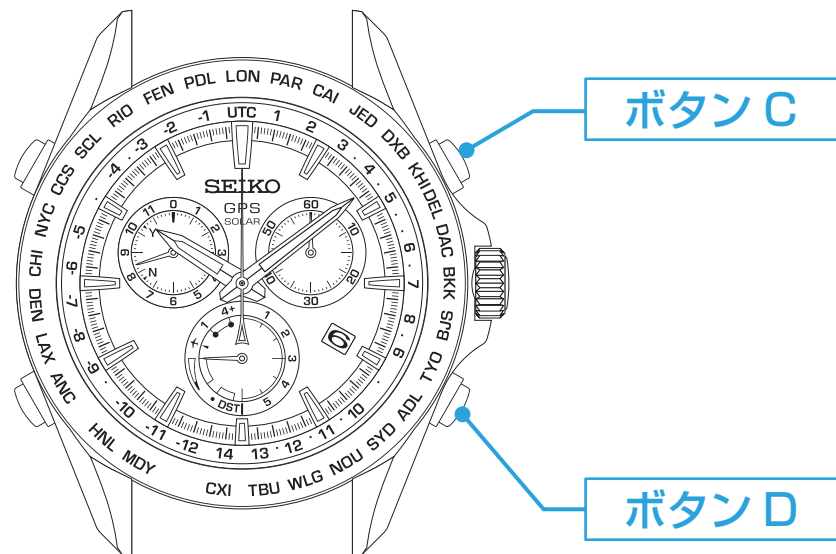
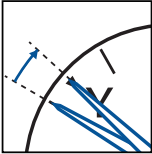
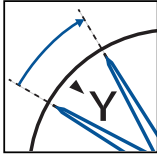
・ストップウオッチ針が止まっている場合、以下の3つの場合があります。

【ストップ状態で止まっている】
① ボタンDでリセット

【スプリット表示でストップウオッチが計測中】
① ボタンDでストップウオッチ針が早送りし、その後計測状態になる。
② ボタンCでストップ
③ ボタンDでリセット

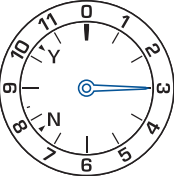
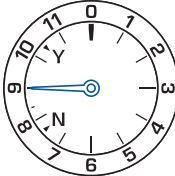
【スプリット表示でストップ状態】
① ボタンDでストップウオッチ針が早送りし、その後止まる。
② ボタンDでリセット

※ストップウオッチ時針はリセット後、エネルギー残量表示に戻る。

目次

小秒針の動きと時計の状態（エネルギー切れ予告機能）

小秒針の動きから、時計の状態（はたらいている機能）がわかります。

２秒運針・５秒運針になっている

エネルギー残量が少ないと、エネルギー切れ予告機能がはたらきます。
エネルギーが不足しているときは光をあてて充電をしてください。 →充電のしかた P.14

※ エネルギー切れ予告機能がはたらいているときは、ボタンを操作しても作動しません。
（故障ではありませんので、ご安心ください。）

	２秒運針	５秒運針
状況	小秒針が２秒ごとに運針している	小秒針が５秒ごとに運針している
機能・表示の制限	・GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまらない。 ・自動時刻修正がはたらかない。 ・ストップウオッチが作動しない。	・時針・分針・日付・小時計が停止 ・GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまらない。 ・自動時刻修正がはたらかない。 ・ストップウオッチが作動しない。
このようにしてください	①まずは１秒運針になるまで光をあてて充電を行ってください。 →充電のしかた P.14 ②インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで充電をすることを心がけてください。（インジケータ針が「少ない」を指しているときはGPS電波受信ができません。） →エネルギー残量を確認する P.13	①インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで充電をしてください。 →エネルギー残量を確認する P.13 ②タイムゾーン修正をして、時刻を合わせてください。 →タイムゾーン修正のしかた P.18

次のページに続く

目次

小秒針が15秒位置・45秒位置で停止している(パワーセーブ機能)

光があたらない状態が続くと、パワーセーブ(節電)機能がはたらきます。

	パワーセーブ1	パワーセーブ2
状況	小秒針が15秒の位置で停止	小秒針が45秒の位置で停止
機能・表示の制限	・時分針・日付が停止。 ・自動時刻修正は行わない。	・時分針・日付が停止。 (日付は「1」になる) ・GPS電波受信の操作をしても受信ははじまらない。 ・自動時刻修正は行わない。 ・インジケータ針が「少ない」を指している。 ・ストップウオッチが作動しない。
原因	光があたらない状態が72時間以上続いた	充電不足の状態が長く続いた
対処のしかた	・5秒以上光をあてる、またはいずれかのボタンを押すと針が早送りされて現在時刻に戻ります	①インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで充電をしてください。 → P.13~14 ②タイムゾーン修正をして、時刻を合わせてください。 → P.17~18

パワーセーブ2について
※ 充電をした場合、充電中は【5秒運針】になります。【5秒運針】の間はボタンの操作ができません。
※ 長時間続くと、エネルギー残量の低下により、内部で記憶されていた現在時刻の情報が失われます。

お手入れについて

●日ごろからこまめにお手入れしてください

・ りゅうずを引き出して洗わないでください。
・ 水分や汗、汚れはこまめに柔らかい布でふき取るように心がけてください。
・ 海水につけた後は、必ず真水でよく洗ってからふき取ってください。
その際、直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。
※「非防水」、「日常生活用防水」の場合は、おやめください。
→ 性能と型式について　P.35　防水性能について　P.36

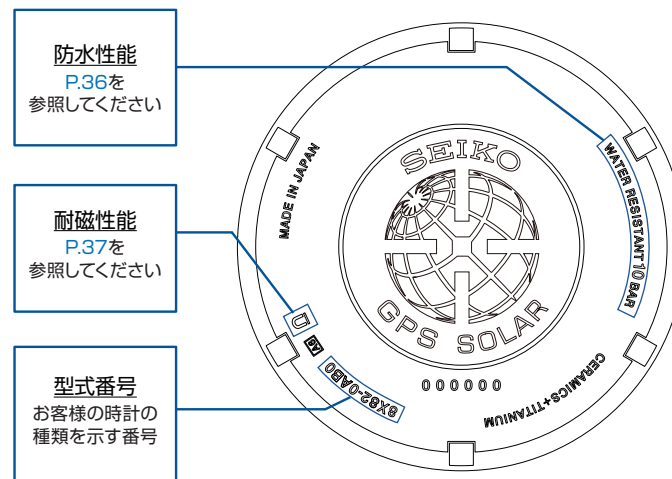
●りゅうずは時々回してください

・ りゅうずのさびつきを防止するために、時々りゅうずを回してください。

●ボタンは時々押してください

・ ボタンのさびつきを防止するため、時々ボタンを押してください。
※ ボタンを押すことによりストップウオッチ等の操作をする場合がありますのでご注意ください。

性能と型式について

時計の裏ぶたで性能と型式の確認ができます。

※ 上の図は例であり、お買い上げいただいた時計とは異なる場合があります。

目次

防水性能について

お買い上げいただいた時計の防水性能を下記の表でご確認の上ご使用ください。

裏ぶた表示	防水性能	お取扱方法
WATER RESISTANT 10(20)BAR	日常生活用強化防水で 10（20）気圧防水です。	水泳などのスポーツに使用できます。 空気ボンベを使用しないスキンダイビングに使用できます。

耐磁性能について(磁気の影響)

この時計は、身近にある磁気の影響を受け、時刻が狂ったり止まったりします。

※ この時計は、磁気により時刻が狂っても、「針位置自動修正機能」によって自動的に針位置を修正します。(P.45)

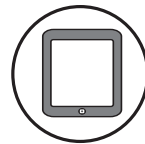
この時計はJIS1種相当の耐磁性能があります。

⚠注意
磁気製品より、5cm以上遠ざけてご使用ください。

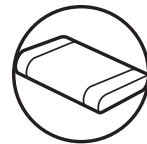
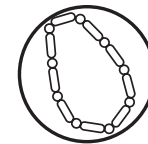
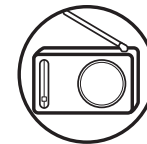
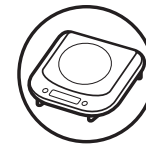
磁気を帯びたことが原因で、携帯使用時の精度めやす範囲を超えている場合、磁気の除去および精度の再調整作業は、保証期間にかかわらず有料とさせていただきます。

この時計が磁気の影響を受ける理由

内蔵されているモーターは磁石を使用しており、外からの強い磁気の影響を受けます。

時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例

携帯電話・スマートフォン・タブレット端末(スピーカー部)

ACアダプター

バッグ(磁石の止め金)

交流電気かみそり

電磁調理器

携帯ラジオ(スピーカー部)

磁気ネックレス

磁気健康枕

バンドについて

バンドは直接肌に触れ、汗やほこりで汚れます。そのため、お手入れが悪いとバンドが早く傷んだり、肌のかぶれ・そで口の汚れなどの原因になります。
長くお使いになるためには、こまめなお手入れが必要です。

●金属バンド

・ ステンレスバンドも水や汗・汚れをそのままにしておくと、さびやすくなります。
・ 手入れが悪いと、かぶれやワイシャツのそで口が黄色や金色に汚れる原因になります。
・ 水や汗・汚れは、早めに柔らかな布でふき取ってください。
・ バンドのすき間の汚れは、水で洗い、柔らかな歯ブラシなどで取り除いてください。
（時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護してください。）
残った水分は柔らかな布でふき取ってください。
・ チタンバンドでも、ピン類には強度に優れたステンレスが使用されているものがあり、ステンレスからさびが発生することがあります。
・ さびが進行すると、ピンの飛び出しや抜けが発生し、時計を脱落させてしまうことがあります。また、逆に中留が外れなくなることがあります。
・ 万が一、ピンが飛び出している場合は、けがをするおそれがありますので、ただちに使用をやめて修理をご依頼ください。

●皮革バンド

・ 水や汗、直射日光に弱く、色落ちや劣化の原因になります。
・ 水がかかったときや汗をかいた後は、すぐに乾いた布などで、吸い取るように軽くふいてください。
・ 直接日光にあたる場所には放置しないでください。
・ 色の薄いバンドは、汚れが目立ちやすいので、ご使用の際はご注意ください。
・ 時計本体が日常生活用強化防水10（20）気圧防水になっているものでも、アクアフリーバンド以外の皮革バンドは、水泳・水仕事などでのご使用はお控えください。

●ポリウレタンバンド

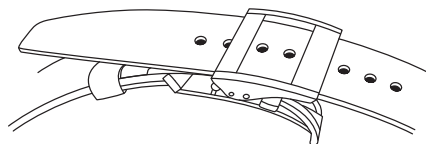
・ 光で色があせたり、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。
・ 特に半透明や白色・淡い色のバンドは、他の色を吸着しやすく、また変色をおこします。
・ 汚れたら水で洗い、乾いた布でよくふき取ってください。
（時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護してください。）
・ 弾力性がなくなったら取り換えてください。そのまま使い続けるとひび割れが生じバンドが切れやすくなります。

●シリコンバンド

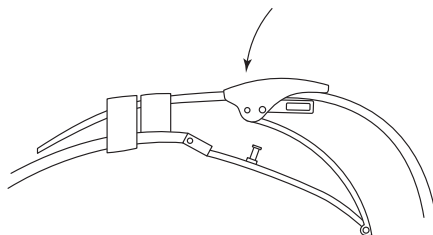
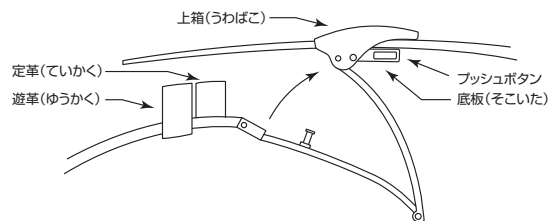
・ 材料の特性上、バンドに汚れがつきやすく、しみこんだりして、変色を生じることがあります。汚れた場合は、ぬれた布やウェットクリーニングティッシュ等ですぐにふきとってください。
・ 他の材料に比べ、亀裂が生じた場合そこから切れてしまう恐れがあります。先の鋭い刃物などで傷つけない様、ご注意ください。

かぶれやアレルギーについて	バンドによるかぶれは、金属や皮革が原因となるアレルギー反応や、汚れ、もしくはバンドとのすれなどの不快感が原因となる場合など、いろいろな発生原因があります。
バンドサイズのめやすについて	バンドは多少余裕をもたせ、通気性をよくしてご使用ください。時計をつけた状態で、指一本入る程度が適当です。

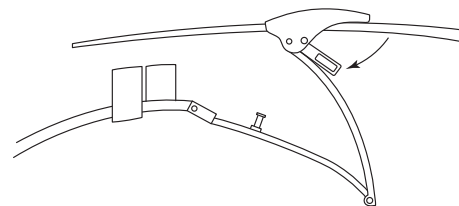
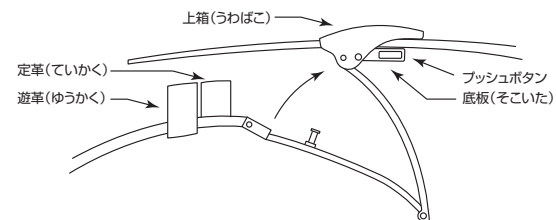
三つ折れ式中留（なかどめ）の使いかた

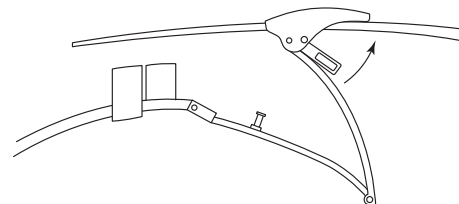
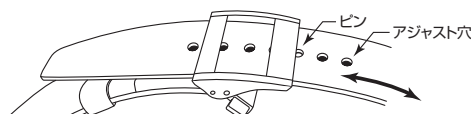
バンドには、調整可能な三つ折れ式中留を用いたものがあります。
お買い上げの時計の中留が、図のような中留のときは下記の操作方法を参照してください。

・着脱のしかた

1 プッシュボタンを両側から押しながらバンドを定革・遊革から抜いて、中留を開きます。

2 バンドの剣先（先端）を定革・遊革に入れてから、上箱を上からしっかり押さえて留めます。

・バンドの長さを調節するには

1 プッシュボタンを両側から押しながらバンドを定革・遊革から抜いて、中留を開きます。

2 もう一度プッシュボタンを押し、底板を下に開きます。

3 ピンをアジャスト穴から外します。バンドを左右にスライドさせ、適切な長さのところで、ピンをアジャスト穴に入れます。

4 底板を閉めます。

※上の図は例であり、お買い上げいただいた時計の仕様とは異なる場合があります。

目次

ルミブライトについて

お買い上げの時計がルミブライトつきの場合

ルミブライトは、太陽光や照明のあかりを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約3時間〜5時間)発光します。光が当たらなくなってから輝度(明るさ)は、時間の経過とともに弱まります。なお、光を蓄える際の光の強さや光の吸収度合いとルミブライトの面積によって、発光する時間や見え方に差が生じます。

※ 一般的には明るい所から暗い所へ入った場合、人の目はすぐには順応しません。初めはものが見にくいですが、時間の経過と共に見やすくなってきます。(目の暗順応)
※ ルミブライトは、放射能などの有害物質をまったく含んでいない環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)塗料です。

<照度のめやすについて>

環境		明るさ(照度)のめやす
太陽光	晴れ	100,000ルクス
	くもり	10,000ルクス
屋内(昼間窓際)	晴れ	3,000ルクス以上
	くもり	1,000〜3,000ルクス
	雨	1,000ルクス以下
照明(白色蛍光灯40Wの下で)	1m	1,000ルクス
	3m	500ルクス(通常室内レベル)
	4m	250ルクス

使用電源について

この時計には、一般の酸化銀電池とは異なる専用の二次電池を使用しています。
二次電池とは、乾電池やボタン電池のような使い捨ての電池とは異なり、充電と放電をしながら繰り返し使用可能な電池です。

長期的な使用や使用環境により、容量や充電効率が少しずつ低下する場合があります。
また、長期間使用すると、機械部品の磨耗や汚れ、潤滑油の劣化等によって持続時間が短くなる場合があります。性能が低下し始めたら修理にお出しください。

⚠警告

二次電池交換時のご注意

- 二次電池は取り出さないでください。

  二次電池の交換には専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
- 一般の酸化銀電池が組み込まれると、破裂、発熱、発火などのおそれがあります。

※ 過充電防止機能

フル充電までの所要時間を超えて充電しても、時計が破損することはありません。
二次電池がフル充電になると、それ以上充電されないように、自動的に過充電防止機能がはたらきます。

※ フル充電までの所要時間については「充電にかかる時間のめやす P.14」を参照してください。

⚠警告

充電時のご注意

- 充電の際、撮影用ライト、スポットライト、白熱ライト(球)などに、近づけ過ぎると、時計が高温になり内部の部品等が損傷を受けるおそれがありますのでおやめください。
- 太陽光にて充電する際も、車のダッシュボード等では、かなりの高温となり故障の原因となる場合がありますので、おやめください。
- 時計が60℃以上にならないようにしてください。

※ 長期間充電されない状態が続いたとき

長期間充電されない状態が続くと、完全に放電してしまい、充電できなくなってしまうことがあります。その場合はお買い上げ店にご相談ください。

目次

アフターサービスについて

●保証と修理について

・修理や点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際は、お買い上げ店、または弊社お客様相談窓口にご依頼ください。

・保証期間内に不具合が生じた場合は、必ず保証書を添えてお買い上げ店へお持ちください。

・保証内容は保証書に記載したとおりです。保証書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

・保証期間終了後については、修理によって機能が維持できる場合には、ご要望により有料修理させていただきます。

●補修用性能部品について

・この時計の補修用性能部品の保有期間は、通常７年を基準としています。補修用性能部品とは、時計の機能を維持するために必要な修理用部品です。

・修理の際、外観の異なる代替部品を使用させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

●点検調整のための分解掃除（オーバーホール）について

・長くご愛用いただくために、3年〜４年に１度程度の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）をおすすめします。ご使用状況によっては、機械の保油状態が損なわれたり、油の汚れなどによって部品が磨耗し、止まりにいたることがあります。またパッキンなどの部品の劣化が進み、汗や水分の浸入などで防水性能が損なわれる場合があります。
点検調整のための分解掃除（オーバーホール）は、「純正部品」とご指定の上、お買い上げ店にご依頼ください。その際、パッキンやばね棒の交換もあわせてご依頼ください。

・点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際には、ムーブメント交換となる場合もあります。

目次

GPS電波の受信ができないとき

確認していただきたいこと

GPS電波受信の操作をしても受信がはじまらない、受信ができないときは、以下のことが考えられます。

●GPS電波受信(タイムゾーン修正・強制時刻修正)の操作をしても受信がはじまらない

・インジケータ針の位置を確認してください。

受信できない状態

インジケータ表示	エネルギー残量表示 少ない	機内モード(✈)
表　示	(DST)	(4+ 1 0 ✈)
このようにしてください	光をあてて、「中くらい」または「十分」になるまで充電してください。→充電のしかた　P.14	機内モード(✈)を解除してください。→機内モード(✈)状態を解除する　P.21

・ストップウオッチが作動中でないか確認してください。

●GPS電波受信(タイムゾーン修正・強制時刻修正)の操作をしても、受信ができない(受信結果表示が「N」になる。)
・受信しやすい場所でGPS電波受信をしてください。
→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

●受信終了前に小秒針が45秒位置で停止する(パワーセーブ2の状態になる)
・充電容量や充電効率が低下した状態のときに低温下(0℃以下)でGPS電波受信を行うと、受信を中止し、パワーセーブ2の状態になることがあります。
GPS電波受信にはたくさんのエネルギーを消費します。こまめに光を当て充電をすることを心がけてください　→　充電のしかた　P.14
このような現象がたびたび起こるようであれば、お買い上げ店にご相談ください。

電波が受信できない環境で時刻を合わせる(手動時刻合わせについて)

手動時刻合わせについて

「確認していただきたいこと」を行っても問題が解決しないときや、電波が受信できない環境で時刻がずれてしまい、その後も受信ができない状況が続く場合は手動で時刻を合わせてください。

目次

手動時刻合わせのしかた

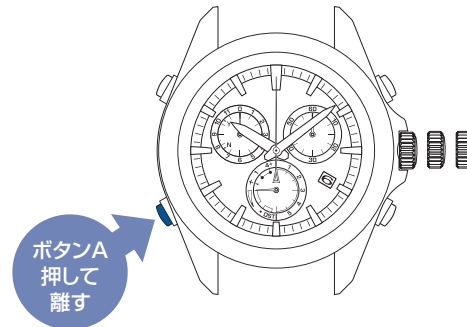
・再び受信可能な環境で使うときは、電波を受信して時刻を合わせてください。
・時刻を修正するときは、日付が連動して動きます。

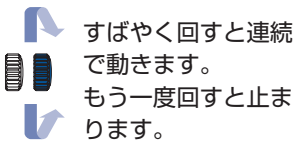
1 りゅうずを2段引きだす

小秒針がその場所で止まります

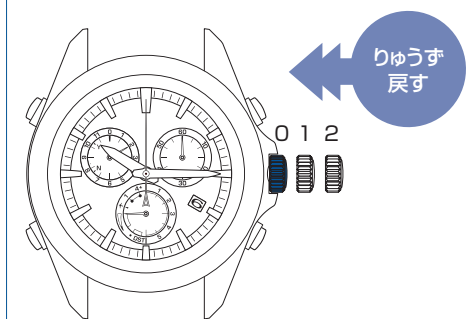
※ストップウオッチ使用中の場合はストップウオッチがリセットされます。

2 ボタンAを押して、離す

小秒針が0秒位置に移動し、停止します。
手動時刻合わせのモードに入ります。

※手動時刻合わせのモードに入ると、電波受信結果のデータが失われるため、受信結果を確認しても「N」と表示されます。

3 りゅうずを回して時刻を合わせる

※連続で動いた場合は、12時間で1度停止します。
続けて合わせる場合は、りゅうずを回してください。
※日付が変わるときが、午前12時です。午前・午後に注意して合わせてください。

4 時報などに合わせてりゅうずを押し戻す

操作は完了です。
時計が動きはじめます。

※ 電波が受信できない場合でも、通常のクオーツ時計と同じ精度でお使いいただけます。(平均月差±15秒)
※ 手動時刻合わせの後で電波を受信したときは、受信した時刻を表示します。

ストップウオッチ針、日付、インジケータ針の位置がずれているとき

確認していただきたいこと

●受信はできている(受信結果表示は「Y」になる)が、時刻がずれている

・タイムゾーンの設定を確認してください。
　→　タイムゾーンとDST(サマータイム)の設定を確認する　P.20
タイムゾーンが今いる場所と違うときは、いずれかの操作でタイムゾーンを合わせてください。
受信がしやすい場所にいるとき　→ タイムゾーン修正のしかた　P.18
受信ができない場所にいるとき　→ 手動タイムゾーン選択のしかた　P.22

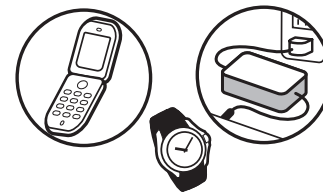
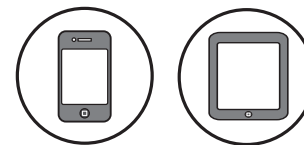
・DST(サマータイム)の設定を確認してください。
　→　タイムゾーンとDST(サマータイム)の設定を確認する　P.20
DST(サマータイム)の設定と今いる場所のDST(サマータイム)の実施状況が合っていないときは、「DST(サマータイム)の設定をする　P.19」で合わせてください。

・スマートセンサー(自動時刻修正)が数日間はたらいていない可能性があります。
　→自動時刻修正について　P.25
エネルギー残量が少なかったり環境によっては自動時刻修正がはたらきにくいことがあります。
すぐに時刻を合わせたいときは「タイムゾーン修正のしかた　P.18」で時刻を合わせてください。

基準位置について

電波受信に成功しても時刻・日付が合わないときや、ストップウオッチ針やインジケータ針の指す位置がずれていることは基準位置がずれていると考えられます。

基準位置がずれる理由は、以下の原因が考えられます。

落とす、強くぶつけるなどの強い衝撃

磁気を発するものによる影響
→ 時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例　P.37

【針の基準位置がずれている】状態とは、体重計に例えると「メーターのゼロ位置が合っていないために、正しい体重が表示できない」ということです。

時・分・小秒針の基準位置合わせ（針位置自動修正機能）

時・分・小秒針には、基準位置がずれたときに自動的に修正する「針位置自動修正機能」があります。
針位置自動修正機能がはたらくのは、時分針は12時間に1回(午前・午後12時)、小秒針は1分に1回です。

※ この機能は、衝撃や磁気による影響(外的要因)で、針がずれてしまったときにはたらきます。
　時計の精度や製造上の微細なずれを修正する機能ではありません。
※ 時分針の基準位置は手動でも修正することができます。
　→ ストップウオッチ針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる　P.46

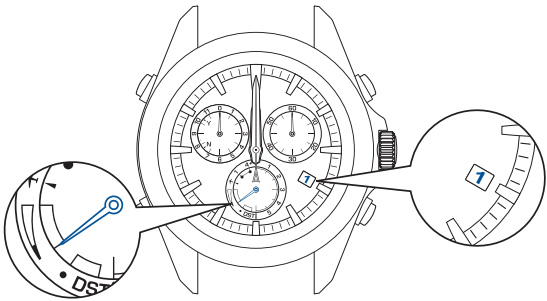
ストップウオッチ針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置合わせ

ストップウオッチ針・日付・インジケータ針の基準位置は自動では修正されないため、手動で合わせる必要があります。

→ストップウオッチ針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる　P.46

目次

この時計の基準位置について

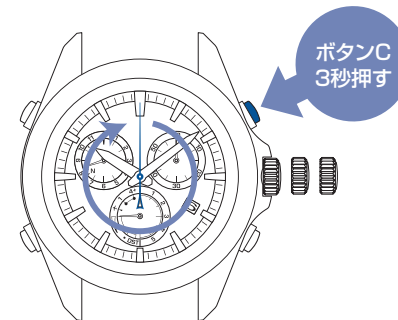
日付の基準位置は「1」(1日)です。
インジケータ針の基準位置は「少ない」です。
時分針の基準位置は「午前12時0分」です。
ストップウオッチ1/5秒針の基準位置は「0秒」
ストップウオッチ分針の基準位置は「0分」です。

ストップウオッチ針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる

1 りゅうずを2段引きだす

小秒針が止まります。

※ストップウオッチ使用中の場合はストップウオッチがリセットされます。

2 ボタンCを押し続ける（3秒）

ストップウオッチ 1/5 秒針の基準位置合わせのモードに入ります。

ストップウオッチ 1/5秒針が 1 周して止まります。

3 りゅうずを回してストップウオッチ 1/5秒針の「0秒」に合わせる

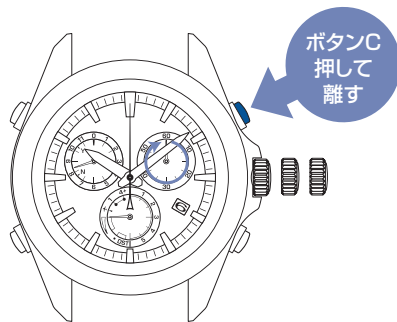
基準位置を正確に合わせるために、
最終的に進み方向で合わせてください。

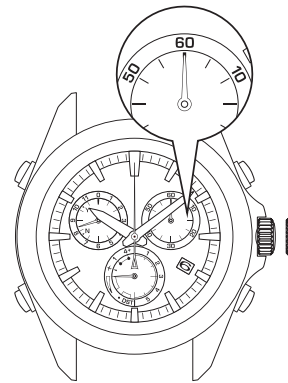
ストップウオッチ 1/5秒針を戻し方向で
合わせる場合も
基準位置よりさらに4〜5秒戻してから
進み方向で合わせてください。

次のページに続く

目次

4 ボタンCを押して、離す

ストップウオッチ分針の基準位置合わせのモードに入ります。

ストップウオッチ分針が
１周して止まります。

5 りゅうずを回してストップウオッチ分針の「0分」に合わせる

りゅうずを右に回すと
1ステップ進みます。

すばやく回すと連続で動きます。
もう一度回すと止まります。

りゅうずを左に回すと
1ステップ戻ります。

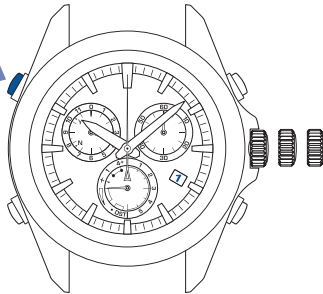
基準位置を正確に合わせるために、
最終的に進み方向で合わせてください。

ストップウオッチ分針を戻し方向で合わせる場合も
基準位置よりさらに4〜5分戻してから
進み方向で合わせてください。

次のページに続く

6 ボタンBを押し続ける（3秒）

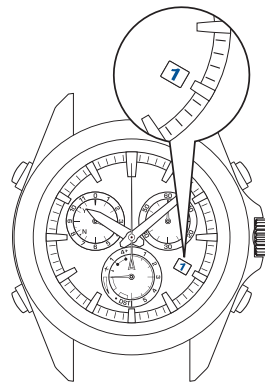
日付の基準位置合わせのモードに入ります。

ボタンB
3秒押す

※日付が動いている間は、ボタン操作はできません。

小秒針が18秒位置で止まります。

7 りゅうずを回して日付を「1」にする

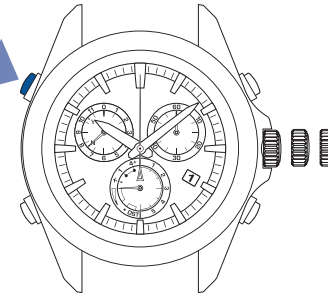
「1」の数字が、日付窓の中心になるように合わせてください。

※「1」が表示されている場合は、⑧の操作へ

りゅうずを右に回すと＋1ステップ移動します。

すばやく回すと連続で動き出し、もう一度回すと止まります。

りゅうずを左に回すと－1ステップ移動します。

8 ボタンBを押して、離す

インジケータ針の基準位置合わせのモードに入ります。

小秒針が38秒位置で止まります。

次のページに続く

目次

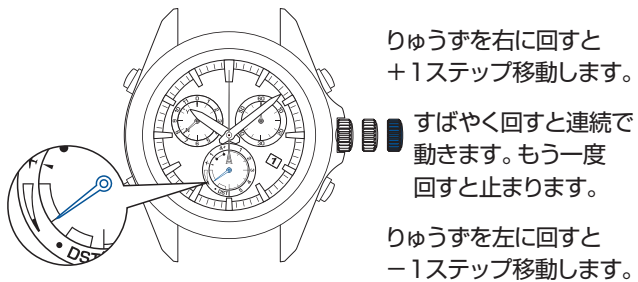
9 りゅうずを回してインジケータ針を図のように合わせる

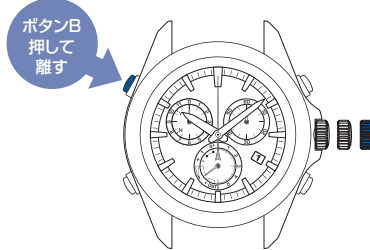
インジケータ針を図の位置に合わせてください。

※図のようになっている場合は⑩の操作へ

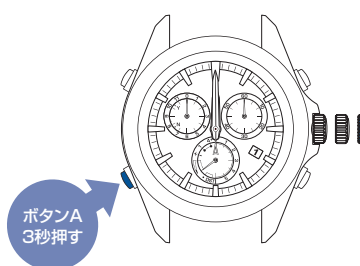
りゅうずを右に回すと＋1ステップ移動します。

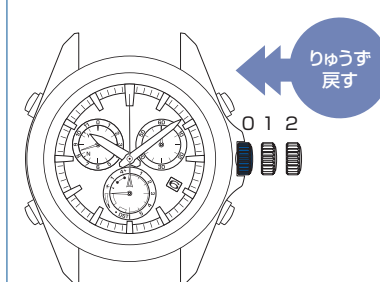
すばやく回すと連続で動きます。もう一度回すと止まります。

りゅうずを左に回すと－1ステップ移動します。

※インジケータ針は１周しますが異常ではありません。

10 ボタンBを押して、離す

小秒針が０秒位置で止まります。

11 ボタンAを押し続ける（3秒）

時分針が動き
「午前12時0分」に停止します。

12 りゅうずを押し戻す

基準位置合わせのモードが終了し、小秒針と時分針が動き始めます。

13 GPS電波を受信して時刻を合わせる

GPS電波が受信しやすい場所にいるときはタイムゾーン修正をしてください。
→ タイムゾーン修正のしかた P.18

①〜⑫までの操作が終了したら、必ず時刻を合わせてください。

GPS電波が受信できない環境にいるとき
①手動でタイムゾーン選択をする
→手動タイムゾーン選択のしかた P.22
②手動で時刻を合わせる
→手動時刻合わせのしかた P.44

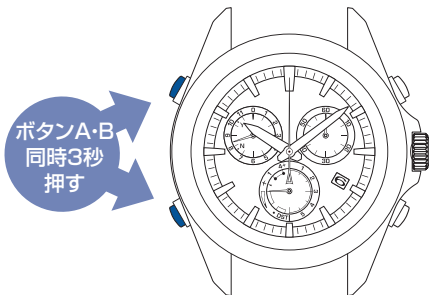
時刻を合わせたら操作は終了です。

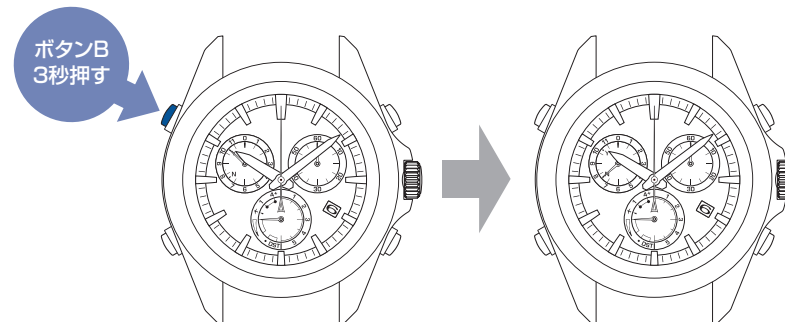
目次

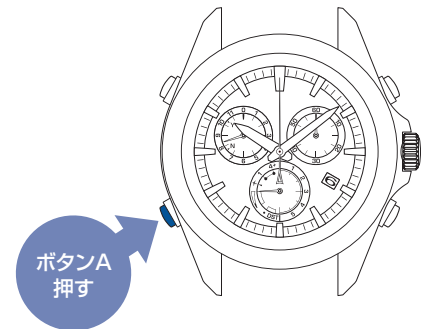
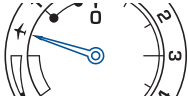
スマートセンサー（自動時刻修正）の光検出を解除する

光検出の設定を解除する

スマートセンサーの光検出を解除することができます。
光検出を解除することで、自動時刻修正が定刻受信の設定になります。
この場合の定刻とは、強制時刻修正に成功した時刻になります。
※通常は光検出の設定になっています。

1 ボタンA・Bを同時に押し続ける（3秒）

2 ボタンBを押し続ける（3秒）

光検出の「設定と解除」の切替が出来ます。
小秒針がY：設定（52秒位置）を指していたのが、N：解除（38秒位置）を指します。

3 ボタンAを押す

時刻表示に戻ります。

光検出の設定にする

光検出の設定にするとき操作①〜③の操作をしてください。
②の操作では小秒針をY（52秒位置）に合わせてください。

こんなときは

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
針の動き	小秒針が2秒ごとに運針している 小秒針が5秒ごとに運針している	エネルギー切れ予告機能がはたらいている(P.33) 毎日身につけていて、この現象が起こる場合は、携帯中に時計が衣類の袖の中に隠れているなど、十分に光があたっていないことが考えられます。	小秒針が1秒ごとに運針し、インジケータ針が「中くらい」または「十分」を指すまで、十分な充電をしてください。 中くらい 携帯中は、なるべく時計が袖などに隠れないように気をつけてください。 また、時計を外した際にもなるべく明るい場所に置くことを心がけてください。	P.13 P.14
	小秒針が15秒位置で停止している状態から動きだした	パワーセーブ1がはたらいていた(P.34) 光があたらない状態が続いた場合、無駄なエネルギーの消費を抑えるパワーセーブ1がはたらきます。	光があたると、針が早送りされて現在時刻に戻ります。 現在時刻に戻ったら、そのままお使いください。(異常な動きではありません。)	−
	小秒針が45秒位置で停止している状態から動きだした	パワーセーブ2がはたらいていた(P.34) 充電不足の状態が長く続いたときは、パワーセーブ2がはたらきます。	① インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで、充電をしてください。 ② その後、時刻が合っていない場合は、必要に応じてタイムゾーン修正をしてください。	P.13 P.14 P.17〜18
	ボタン操作をしていないのに針が早送りされ、その後は1秒ごとに運針している	パワーセーブ機能がはたらいていた(P.34) 針位置自動修正機能がはたらいた。 外部からの影響などで針がずれた場合には、針位置自動修正機能がはたらいて自動的に針のずれを直します。	そのまま何もせずにお使いください。(異常な動きではありません。)	−
	ストップウオッチを使用していないが、インジケータ針が0を指している	うるう秒自動受信機能が働いている(P.27)	受信が終わるまで最長18分かかります。 「受信しやすい場所P.16」を心がけてお使いください。	P.27

目次

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
GPS 電波受信	タイムゾーン修正・強制時刻修正の操作をしても受信がはじまらない	エネルギー残量表示が「少ない」になっている(P.13)	エネルギー残量表示が「中くらい」または「十分」になるまで、十分な充電をしてください。	P.14
		機内モード(✈)状態になっている(P.21)	電波の使用制限のある場所（飛行機内など）から移動したら、機内モード(✈)を解除してください。	P.21
		ストップウオッチが作動している ストップウオッチがリセットされていない	ストップウオッチをストップ・リセットしてください。	P.32
	GPS 電波受信をしても受信ができない。（受信結果表示が「N」になる）	受信できない場所にいる。(P.16)	受信しやすい場所で受信をしてください。	P.16
	受信はできている（受信結果表示が「Y」になる）が、時刻・日付がずれている（時刻修正の受信結果のとき）	今いる場所と異なるタイムゾーンが設定されている。	タイムゾーンの設定を確認してください。 タイムゾーンが今いる場所と違うときは、タイムゾーンを合わせてください。 ・受信しやすい場所にいるとき　→ タイムゾーン修正のしかた ・受信ができない場所にいるとき　→ 手動タイムゾーン選択のしかた	P.20 P.18 P.22
		DST(サマータイム)の設定と今いる場所のサマータイムの実施状況が合っていない。	DST（サマータイム）の設定を確認してください。	P.20
	受信結果表示が「Y」になるが、時刻・日付がずれている（タイムゾーン修正の受信結果のとき）	DST(サマータイム)の設定と今いる場所のサマータイムの実施状況が合っていない。	DST（サマータイム）の設定を確認してください。	P.20
		外部からの影響で針の位置がずれている。 針の基準位置がずれている。 → 基準位置について　P.45	① ＜時分針のずれ＞針位置自動修正機能がはたらいて、自動的に修正されます。何もせずにそのままお使いください。針位置自動修正機能は、小秒針は１分に１回、時分針は午前・午後１2時です。 ＜日付のずれ＞基準位置が自動では修正されないため、手動で合わせてください。 ② 針のずれが修正されない場合は、「「ストップウオッチ針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる」を参照し、操作をしてください。 ③ ②の操作を行なっても、針のずれが修正されない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.46 P.46
	受信結果表示が「Y」になるが、１～２秒ずれている	自動時刻修正が数日はたらいていない	エネルギーが十分でないと自動時刻修正がはたらく間隔が３日に１日になることがあります。	P.25

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
GPS 電波受信	自動時刻修正が毎日はたらいていない	エネルギーが十分にない 自動時刻修正がはたらく環境・条件になっていない	自動時刻修正がはたらくようになるには十分なエネルギーが必要です。強い光が当たることで自動的に時刻修正がはたらきます。	P.25
	自動受信が 有効に働かない	光があたるタイミングで受信できる環境にいない	光により自動的に受信を始める機能を解除し、定刻受信のみ設定にすることが出来ます。この場合の定刻とは、最後に強制時刻修正が成功した時刻になります。 ＜光自動受信機能の切替方法＞ ① ボタンA・Bを同時に押し続ける（3秒） 小秒針が機能の設定／解除を示します。Y（52秒位置：設定）、N（38秒位置：解除） ② 設定／解除する場合には、ボタンBを押し続ける（3秒）	P.50

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
時刻、針のずれ	「受信結果表示」や「捕捉衛星数表示」を示す小秒針の位置がずれている	小秒針の基準位置がずれている。(外部からの影響などにより小秒針の位置がずれているときに起こります。) → 基準位置について　P.45	① 針位置自動修正機能がはたらいて、自動的に修正されます。何もせずにそのままお使いください。針位置自動修正機能がはたらくのは、小秒針は 1 分に 1 回です。 ② 針のずれが修正されない場合は、「ストップウオッチ針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる」を参照し、操作をしてください。 ③ ②の操作を行なっても、針のずれが修正されない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.45 P.46～49
	時計が一時的に進む、または遅れる	自動時刻修正が数日間はたらいていない	エネルギーが十分でないと自動時刻修正がはたらく間隔が3日に1回になることがあります。 すぐに時刻を合わせたいときは強制時刻修正を行ってください。	P.25 P.24
		外部からの影響で間違った時刻を受信した。(誤受信)	① より受信しやすい場所で受信するようにしてください。 ② 必要に応じてタイムゾーン修正をしてください。	P.16 P.18
		時計を暑いところ、または寒いところに放置した。	① 常温に戻れば元の精度に戻ります。 ② その後、時刻が合っていない場合は、必要に応じて強制時刻修正をしてください。 ③ 元に戻らない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.24
	1 時間時刻が進んでいる(遅れている)	DST(サマータイム)の設定(解除)になっている。	DST(サマータイム)の設定を確認してください。	P.20

目次

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
充　電	止まっていた時計を充電しても１秒運針にならない	あてる光が弱い。 充電時間が短い。	照度によって充電にかかる時間は変わります。 「充電にかかる時間のめやす」を参考に、充電を行なってください。	P.14
	フル充電までの時間以上に充電しても小秒針が停止している	長時間充電されない状態が続き、完全放電してしまった。	お買い上げ店にご相談ください。	－
日付のずれ	受信成功後、時刻は合っているが日付が合っていない	日付の基準位置がずれている。 外部からの影響などにより、日付の基準位置がずれているときに起こります。	日付の基準位置を正しい位置、「1」（1日）にしてください。	P.46～49
ストップウオッチ針のずれ	リセットをしてもストップウオッチ針が０位置に合わない	ストップウオッチ針の基準位置がずれている	ストップウオッチ針の基準位置合わせを正しく合わせてください。	P.46～49

目次

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
インジケータ針のずれ	受信種類、エネルギー残量、機内モード（✈）、DST表示の針の位置がずれている	うるう秒自動受信機能がはたらいている。 （インジケータ針は０で停止しています。）	うるう秒情報の受信が終わるまで最長１８分かかります。 受信しやすい場所Ｐ.１６を心がけてお使いください。	P.27
		インジケータ針の基準位置がずれている。 外部からの影響などにより、インジケータ針の基準位置がずれているときに起こります。	インジケータ針の基準位置を正しい位置に合わせてください。	P.46〜49
操　作	ボタン、りゅうずが機能しない （操作しても動かない）	エネルギー残量が少なくなっている。	小秒針が１秒ごとに運針するまで、十分な充電をしてください。	P.14
		設定の操作の直後で、日付が動いている途中である。	何もせず、そのままお待ちください。日付の動きが止まれば操作できるようになります。	−
	設定中に操作がわからなくなった	————	りゅうずが引き出されている場合 ① りゅうずを戻してください。 ② 最大６分で小秒針が動きます。 ③ その後で、改めて操作をやりなおしてください。	−
			りゅうずが引き出されていない場合 ① ボタンＡを押してください。 ② 最大２分で小秒針が動きます。 ③ その後で、改めて操作をやりなおしてください。	−
その他	ガラスのくもりが消えない	パッキンの劣化などにより時計内部に水が入った。	お買い上げ店にご相談ください。	−

目次

索　引

時刻を合わせるための機能

充電に関する機能

目次

受信に関する機能

機内モード（✈）…………GPS電波受信がはたらかなくなる機能です。飛行機に乗るときなどに設定します。
→ P.21

捕捉衛星数表示機能………GPS電波受信中に、現在何基のGPS衛星から受信しているかを小秒針で表示します。
→ P.18

受信結果表示機能…………最新の受信結果（成否）を表示します。
→ P.28

タイムゾーン確認機能……現在設定されているタイムゾーンを表示する機能です。
→ P.20

その他の機能

ストップウオッチ機能……1/5秒単位6時間計、スプリット機能つき
→ P.30

針位置自動修正機能………磁気など外部からの影響で針がずれた場合に、自動的にずれを直します。
→ P.45

うるう秒自動受信機能……うるう秒の受信が必要なときに自動的にうるう秒情報を受信します。
→ P.27

製品仕様

1. 基本機能…………基本時計（時・分・小秒針）、日付表示、インジケータ針、ストップウオッチ（時、分、1/5 秒）、ワールドタイム機能（40 タイムゾーン）
2. 水晶振動数…………32,768 Hz（Hz=1 秒間の振動数）
3. 精度…………平均月差 ±15秒以内（電波受信による時刻修正が行なわれない場合、かつ気温5℃〜35℃において腕に着けた場合）
4. 作動温度範囲…………−10℃〜+60℃
5. 駆動方式…………ステップモーター式（基本時計の時、分、小秒針）、日付表示、インジケータ針、ストップウオッチ針（時・分・1/5 秒）
6. 使用電源…………専用二次電池：1個
7. 持続時間…………約 6 ヶ月（フル充電で、パワーセーブが作動しない場合）
※ フル充電をした状態からパワーセーブが作動した場合は最大約 2 年
8. GPS 電波受信機能…タイムゾーン修正、強制時刻修正、自動時刻修正
※ 受信から次の受信までは上記クオーツの精度で動く
9. 電子回路…………発振、分周、駆動、受信回路：IC 4 個

全国共通フリーダイヤル 0120-612-911
< ONLY IN JAPAN >

お客様相談室
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1 国際ビル
〒550-0013 大阪市西区新町 1-4-24 大阪四ツ橋新町ビルディング

セイコーウオッチ株式会社
本社 〒105-8467 東京都港区虎ノ門 2-8-10
http://www.seiko-watch.co.jp/

※仕様は改良のため予告なく変更することがあります。